

## 学会記事

### 公益社団法人日本看護科学学会 平成 23 年 12 月社員総会 議事次第

日時：平成 23 年 12 月 1 日（木）17:30～20:30  
場所：高知市文化プラザかるぼーと 大講義室  
高知市九反田 2-1 TEL：088-883-5011

#### I. 開会

#### II. 理事長挨拶

#### III. 第 31 回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

#### IV. 議長指名および議事録署名人の承認

#### V. 報告事項

1. 理事会報告および社員総会報告
2. 総務報告
3. 委員会活動報告
  - 1) 総務委員会
  - 2) 和文誌編集委員会
  - 3) 英文誌編集委員会
  - 4) 研究・学術情報委員会
  - 5) 国際活動推進委員会
  - 6) 看護学学術用語検討委員会
  - 7) 看護倫理検討委員会
  - 8) 社会貢献委員会

#### 9) 表彰論文選考委員会

#### 10) 広報委員会

#### 11) 研究倫理審査委員会

#### 12) 災害看護支援事業専門委員会

#### 13) 30 周年記念誌編纂委員会

#### 14) 他機関との連携活動

①日本看護系学会協議会

②看護系学会等社会保険連合

③日本学術会議

④世界看護科学学会

#### VI. 審議事項

1. 公益社団法人日本看護科学学会平成 23 年度補正予算案の承認
2. 公益社団法人日本看護科学学会平成 24 年度事業計画案の承認
3. 公益社団法人日本看護科学学会平成 24 年度予算案の承認
4. 第 34 回日本看護科学学会学術集会会長の承認

#### VII. 閉会

## 公益社団法人日本看護科学学会 平成 23 年 12 月社員総会 議事録

日 時：平成 23 年 12 月 1 日（木）17:30～20:00

場 所：高知市文化プラザかるぼーと 大講義室

高知県高知市九反田 2-1

TEL：088-883-5011(代)

総社員数：202 名

出席社員数：160 名（会場 65 名，委任状 95 名）

出席者：社員（代議員）

青木きよ子，荒尾晴恵，安藤祥子，石原逸子，植田喜久子，江本リナ，大島弓子，大西和子，奥 祥子，片田範子，勝田仁美，勝原裕美子，叶谷由佳，河口てる子，川村佐和子，北岡和代，北村愛子，小坂橋喜久代，坂下玲子，佐藤エキ子，佐藤富美子，新道幸恵，征矢野あや子，谷本真理子，田村やよひ，津島ひろ江，筒井真優美，鶴田恵子，徳永恵子，永井優子，中村恵子，成田 伸，西村真実子，西村ユミ，野地有子，野嶋佐由美，早川和生，林 優子，藤井徹也，前原澄子，牧本清子，水野道代，森 明子，山田雅子，山田律子，良村貞子，リボウィッツよし子，渡邊順子，渡辺タミ子  
〔50 音順〕

役員（理事，監事）

小松浩子理事長，田代順子副理事長，石井邦子，石垣和子，岡谷恵子，上泉和子，萱間真美，グレッグ美鈴，酒井郁子，高木廣文，高橋真理，安酸史子，山本あい子，吉沢豊予子，和住淑子（以上理事），近藤潤子（監事）

〔50 音順〕

議 長：小松浩子（理事長）

議事録作成者：萱間真美（総務担当理事）

### I. 開会

開会時，会場出席社員数 35 名，委任状 96 名（※1），計 131 名と全社員 202 名の過半数であるため，定款第 23 条，第 24 条に定められた要件を満たしており，公益社団法人 日本看護科学学会 平成 23 年 12 月社員総会が開会された。司会は田代副理事長，書記は飯坂真司，佐居由美で行なわれた。

### II. 理事長挨拶〈小松理事長〉

6 月に選挙で選出された新しい理事会で迎える，初めての社員総会である。前理事会の大きな出来事として，設立 30 周年を迎えたこと，公益社団法人格の取得があった。本理事会のビジョンとして，将来構想委員会で報告された「4つの柱」を念頭に，看護学の発展のための学術活動推進，学会の財務基盤の安定，若手研究者育成のための諸事業の強化，看護学の専門職による公益社団法人として東日本大震災後の社会貢献事業を進めていく。第 31 回学術集会は，「社会とともに拓く看護の新たな知への挑戦」という重要なテーマで，野嶋集會会長を中心に，明日より開催される。この社員総会で多くのご意見をいただき，今後の発展につなげたい。

### III. 第 31 回日本看護科学学会学術集會会長の挨拶〈第 31 回日本看護科学学会学術集會 野嶋集會会長〉

役員，社員への感謝の辞が述べられた。第 31 回学術集會（JANS31）は開催会場が 3，4 か所に分散するため，参加者にご不便をかけるが，精一杯心地よく参加していただけるよう努力していく。事前登録者が約 1,400 名，演題数 776 題と多くなっている。会場の事情から交流集會を 47 題から 24 題に制限した。シャトルバスが 10 分おきにメイン会場をつなぐ予定である。明日より雨天の予報だが，ぜひ多くの方に参加していただきたい。

定款第 22 条 3 項に基づき，小松理事長が議長に選出された。

### IV. 議長指名および議事録署名人の承認

議事録署名人として成田伸氏，北岡和代氏の 2 名が推薦され，満場一致により承認された。

### V. 報告事項

#### 1. 理事会報告および社員総会報告〈小松理事長〉〈資料 1・2〉

資料に基づき，今年度で開催された理事会，平成 23 年 6 月定例社員総会について説明された。

7 月臨時理事会を 7 月 31 日に開催し，6 月選出の

新役員のスタートとなった。各委員会の人選と承認、平成23年度事業の進捗状況・予算執行状況等を確認した。表彰論文選考委員会による選考事業開始等、いくつかの審議事項を行なった。看護系として唯一の公益社団法人格を持つ学会として、前理事会で決定した、東日本大震災を契機とする災害看護支援事業（看護系学会協議会との共同事業）について、具体的な委員会の立ち上げ、定款施行細則の変更を行なった。設立30周年記念事業として、記念誌編纂委員会の立ち上げ、記念講演会、記念祝賀会の開催を審議した。記念祝賀会は第31回学術集会と共同で開催する。

8月書面理事会では、災害看護支援事業に関する事業規程・専門委員会規程等の定款施行細則変更が承認された。

第3回理事会を9月18日に開催した。30周年記念誌を和文誌の一部として発行すること、記念祝賀会をJANS31懇親会と共同開催とすることを決定した。第32回学術集会（JANS32）の企画委員会立ち上げの報告、3年後の第34回学術集会（JANS34）集會会長の候補者検討、名誉会員候補の推薦（今年度該当者なし）、災害看護支援事業の具体的な公募書類の説明等について審議を行なった。

第4回理事会を10月23日に開催した。社員総会、学会総会の進行、JANS34集會会長候補者の承認、JJNS10周年記念事業企画の進捗状況、各委員会次年度予算・事業の報告等について検討した。JANS32では、「日本再生に際し看護学がどのように貢献するか」とのテーマで企画が固まりつつある。

本日（12月1日）、社員総会に先立って行なわれた第5回理事会では、社員総会、学会総会、30周年記念祝賀会・講演会の進行について最終確認をした。

平成23年6月定例社員総会では、事業報告、学術集会開催および委員会等の審議事項、代議員選挙結果公表、決算承認、会計監査報告等がなされた。

## 2. 総務報告〈萱間理事〉〈資料3〉

資料に基づき、会員数の推移について説明があった。正会員6,643名、名誉会員11名、賛助会員5件、会員総数6,659名と、会員数が増加している旨、報告がされた。

## 3. 委員会活動報告〈資料6〉

### 1) 総務委員会〈萱間理事〉

資料に基づき、本年4月より運用されている会員管

理オンラインシステム、会員マイページ制の導入、事務所長採用面接の実施等について報告がされた。10月着任の御代田事務所長が紹介された。

### 2) 和文誌編集委員会〈上泉理事〉

資料に基づき、学会誌第31巻3号の発刊、編集委員会開催、電子投稿化に伴う編集委員の追加、査読委員の増員、電子ジャーナル化推進としてJ-STAGEへの論文掲載事業を進め、創刊号から閲覧可能となったこと、電子投稿・査読システム導入による投稿規程、専任査読委員制度、査読ガイドライン改訂の実施等について報告された。

### 3) 英文誌編集委員会〈グレッグ理事〉

資料に基づき、Holzemer編集長を迎えての委員会開催、編集委員の編成・仕事内容の明確化、JJNS Vol. 8, No. 1の発刊、インパクトファクターが0.034であったことが報告された。JJNSへの投稿と、査読委員を積極的に引き受けていただきたい旨、要請があった。聖路加看護大学で実施されるJJNSセミナーについての広報があった。

### 4) 研究・学術情報委員会〈吉沢理事〉

資料に基づき、委員会とメール会議の開催、若手研究者育成事業の検討について報告があった。若手研究者のニーズに関するWeb調査の実施について、説明があった。（若手の定義は科研費と同様の39歳未満）

### 5) 国際活動推進委員会および他機関との連携活動 （④世界看護科学学会）〈山本理事〉

資料に基づき、世界看護科学学会（WANS）についてメキシコで開催された第2回学術集会の広報、JANS会員の参加登録サポート、理事会の開催・運営について報告があった。WANS理事会では、第1回議事を承認、東日本大震災に対する海外からの支援への御礼、定款改訂の審議、入会基準・会費に関する議論を行なった。今後2年間、本学会がWANS事務局を引き継ぎ、南裕子先生が理事長を務める旨、第3回学術集会は韓国看護科学学会（KANS）が開催し、第4回はドイツのAssociation of University Hospital Nursing Directorsが候補となっている旨、説明があった。広報委員会との連携のもと、第1回学術集会（神戸）の抄録集のVirginia Henderson Libraryへの登録準備、研究助成申請等の情報収集、会員への情報

提供の仕組みの検討、異文化データベースの情報更新、本学会での交流集会の企画（学術集会2日目の9～10時）について報告があった。

#### 6) 看護学学術用語検討委員会〈和住理事〉

資料に基づき、前委員会の事業である「看護学を構成する重要な用語集」最終案について代議員の意見聴取・修正・最終案の取りまとめをし、新委員会の事業として取り組むべき課題について、自由討議を行なった旨が報告された。看護学学術用語の定期的な見直し、会員・他の看護系学会・他の学問領域研究者の意見聴取を踏まえ、新たなシステムづくりに向けた活動を実施する予定であることが報告された。

#### 7) 看護倫理検討委員会〈石井理事〉

資料に基づき、2回の委員会開催、前委員会の事業を継続し、看護学研究における倫理的課題の整備にむけた実態調査を年度末に実施する旨、報告があった。調査内容は、若手研究者が直面する倫理的問題、利益相反、介入研究における保証などとし、年明けに各大学の代表者に送付し、年度内に回収する予定である旨が報告された。

#### 8) 社会貢献委員会〈高橋理事〉

資料に基づき、この第31回学術集会で実施される市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェ等の準備、担当者の決定、講演者の検討等について報告があった。市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェのテーマや日時について説明があった。

#### 9) 表彰論文選考委員会〈石垣理事〉

資料に基づき、委員会の開催、表彰論文の選定についてのプロセス、最終的に決定した優秀賞1編、奨励賞1編について報告があった。

#### 10) 広報委員会〈酒井理事〉

資料に基づき、委員会の開催、ホームページの維持・管理、第31回学術集会の広報支援、プレスリリース発信、学術集会当日の広報用写真撮影についての説明があった。

#### 11) 研究倫理審査委員会〈高木理事〉

資料に基づき、審議すべき事案がなかったため、委員会は開催されなかった旨が報告された。

#### 12) 災害看護支援事業専門委員会および他機関との連携活動（②看護系学会等社会保険連合）〈岡谷理事〉

資料に基づき、委員会の開催、災害看護支援事業の公募要項等についての検討、ホームページでの募金呼びかけと事業公募、最終的な応募数が9件で採択が3件である旨、報告があった。助成総額は186万1280円であること、来年度の事業継続のために引き続き募金を呼びかける旨、説明があった。

資料に基づき、本学会と看保連の関係について、JANSは看保連の会員として技術検討委員会に所属し、本学会の研究・学術情報委員である柏木氏が参加している旨の説明があった。9月1日の委員会は岡谷理事が代理出席し、また岡谷氏が前理事会で看保連の副代表に推薦され、役員として委員会に出席していることが説明された。看保連から提出した平成24年の医療技術評価提案書11件のうち、厚生労働省のヒアリングを経て、10件が2次審査に進んだことが報告され、過去にない快挙であるとの説明があった。役員会を中心に看保連の法人化について提案する予定であり、それに向けての準備ならびに看護技術の体系化について調査を行う予定であるとの説明がされた。

#### 13) 30周年記念誌編纂委員会〈田代副理事長〉

資料に基づき、30周年記念誌の編纂計画について報告があった。平成24年9月発刊の日本看護科学会誌第32巻第3号との合併号として予定していること、学術集会の変遷、和文誌・英文誌の動向、WANSの立ち上げ、公益社団法人化の経過についての記録、学会の将来展望を盛り込む。記念誌はグラビアページで企画している旨、説明があった。学術集会後、該当者に寄稿を依頼するとの説明がされた。

#### 14) 他機関との連携活動

##### ①日本看護系学会協議会〈田代副理事長〉

資料に基づき、本学会を窓口として災害看護支援事業を開始した旨、専門委員会の組織化、第6回高度実践看護師制度あり方検討会緊急集会の広報の実施について説明があった。

##### ③日本学術会議〈田代副理事長〉

資料に基づき、日本学術会議からのニュース・メールの役員への情報提供、協力学術研究団体による東日本大震災に関する活動調査に対し、本学会の対応、今後の計画、寄付金窓口開設、災害看護支援事業等につ

いて回答した旨が説明された。

## VI. 審議事項

### 1. 公益社団法人日本看護科学学会 平成 23 年度補正予算案の承認〈安酸理事〉〈資料 8〉

資料に基づき、補正予算について説明があった。寄付金・助成金収入として災害看護支援事業寄付金 200 万円、その他の雑収入として英文誌セミナー参加費 46 万円、災害看護支援事業専門委員会支出 10 万円、災害看護支援事業費支出 187 万円を計上した。前期繰越収支差額は 56,046,072 円と補正された。

#### 質疑

- ・ 経常経費の支出に寄付金（支援事業費）を計上しているが、災害に対する寄付金を、特別会計として他の寄付金と区別する必要はないか？  
→ 中村コンサルティングオフィス（税理士）に相談した上で、最終的に現在の項目に計上している。災害看護支援事業を立ち上げて寄付金を募ったので、事業活動収入の寄付金収入として計上している。その結果として、支出も事業活動支出に計上される。

平成 23 年度補正予算案について、満場一致により承認された。

### 2. 公益社団法人日本看護科学学会平成 24 年度事業計画案の承認〈小松理事長〉〈資料 9〉

資料に基づき、平成 24 年度事業計画案について説明がされた。JANS32 の開催、JANS33・JANS34 の準備、英文誌・和文誌の発行、看護学術振興対策、学術研究論文表彰、学会組織の強化・発展のための将来構想に基づく新たな展開への準備として研究・学術情報委員会における若手研究者育成事業、看護倫理検討委員会における若手研究者が直面する倫理問題の調査、財務基盤安定化対策、社会貢献活動、広報活動として過去の写真データの活用、災害看護支援事業および寄付金収入確保、他機関との連携活動、理事選挙準備、30 周年記念事業としての記念誌発行を予定している。

平成 24 年度事業計画案について、満場一致により承認された。

### 3. 公益社団法人日本看護科学学会平成 24 年度予算案の承認〈安酸理事〉〈資料 10・11〉

〈資料 10〉に基づき、平成 24 年度予算案について小項目は千円単位、合計項目は円単位での説明があった。事業活動収入のうち、特定資産運用収入 1 千円、会費収入 7,110 万円、寄付・助成金収入 250 万円（学術集会寄付金 100 万円、災害看護支援事業寄付金 150 万円）、事業収入 41,092 千円（学術集会の会場費の事情で、参加者を多く見積もっているため増加している）、セミナー収入を含めた雑収入 1,143 千円（その他の雑収入にセミナー参加費 40 万円）、以上、事業活動収入合計 115,836,000 円である。

事業費支出 8,302 万円であり、内訳は学会誌発行費支出 28,347 千円、編集活動費支出 1,785 千円、看護学術振興費支出 4,404 千円（うち災害看護支援事業費支出 1,500 千円）、研究学術活動費支出 4,491 千円、社会的活動費支出 1,266 千円（学会ホームページ維持管理費支出を委託費に振り替えたため減少している）、総務費支出 1,327 千円（30 周年記念事業費を総務費支出として計上している）、学術集会費支出 41,399 千円（うち、第 32 回は 40,199 千円で会場費支出が高くなっている、第 33 回は 1,200 千円と計上している）、管理費支出 37,828 千円（うち、社員総会費は参加を促すため 3,010 千円と増加、ホームページ管理分を含む委託費は 2,984 千円、第 32 回学術集会が東京開催であるため旅費交通費支出が減っている）となり、事業活動合計は 120,849,185 円となった。事業活動収支差額△5,013,185 円が実質赤字となり、今年度は委員会活動費を 15% 削減とした予算案である。

投資活動収入合計は 900 千円、投資活動支出合計は 1,824 千円（その他の投資活動支出は事務所の更新料がないため、0 となっている）、投資活動収支差額は△924,000 円となった。財務活動収支は事業計画としてないため計上していない。予備費支出 3,000,000 円としている。当期収支差額が△8,937,185 円、前期繰越収支差額 41,708,128 円、次期繰越収支差額 32,770,943 円となった。

〈資料 11〉に基づき、公益法人としての収支予算書についての説明があった。公益目的事業、収益事業等の事業目的別に整理した収支予算書を、内閣府に提出することが義務づけられている。経常収益計が 115,836,000 円、経常費用計が 121,093,185 円となっている。

## 質疑

- ・前年度に比べて赤字を減少する努力は認められるが、まだ大幅な赤字となっている。今後、どのようにしていくのか？  
→1,000万円程度の赤字を500万円程度に縮小したが、今後の方策を検討している。委員会予算はこれ以上削減すると活動に支障をきたす。会費値上げは最終手段としたいため、小冊子販売、投稿料・掲載料、セミナー参加費、受け取り会費の配分率の変更などを考えている。
- ・英文誌と和文誌の印刷・郵送に経費がかかっているが、他学会では郵送を中止し、オンライン化している、あるいは希望者に別途有料で配布するなどしているが、そのような方法を検討してはどうか？  
→全面オンライン化は時期尚早と考えている。有料配布については今後検討していきたい。

平成24年度予算案について、満場一致により承認された。

## 4. 第34回日本看護科学学会学術集会会長の承認 (資料12)

平成26年度の第34回日本看護科学学会学術集会会長として、愛知県立大学の鎌倉やよい氏が理事会にて推薦され、満場一致により承認された。

## 5. その他質疑

### 特定看護師(仮称)の制度化にむけた学会の対応について

- ・特定看護師(仮)、認定・専門看護師、米国の看護実践博士等の名称・役割について、看護系大学協議会と看護協会ニュースの内容が乖離している、看護科学学会はどのように捉えているのか？  
→シンポジウムとして、看護実践の発展について、看護教育、チーム医療などの視点からこの点を検討する予定である。特定看護師(仮)の法制化については、看護系学会協議会の関連団体として情報収集、緊急集会への参加を実施している。今後、この点を論議する委員会活動を位置づけていくことも必要かもしれない。
- ・看護系学会協議会に所属しているメジャーな学会として、日本看護科学学会はどのような意見集約をす

るのか？あるいはしないのか？理事会の方針としてはどのようなになるのか？

→意見集約について、理事会として具体的な動きが現状では取れていない。日本看護系学会協議会、日本看護系大学協議会に関わっている皆様や学会員から本日、ご意見をいただき、アンブレラ学会としての今後の立場を検討したい。

- ・日本看護協会の大部分は早急に法制化を目指しているような文章を公表している。看護系大学協議会は教育機関を大学院としているが、看護協会は明示していない。今後、CNS等の教育について、看護協会に意見を提示することは必要ないか？
- ・CNS協議会内部でも様々な意見があるため、団体ではなく、地域看護CNSとしての個人の意見を述べたい。今後、医療ニーズの増大に対して、看護師の裁量拡大の流れをストップすべきではない。新しい資格を作るわけではなく、グレーゾーンで行なっていた特定の医行為を、診療の補助行為として教育を受けた者が安心して実施できることを保証する制度である。医師が手薄な地域などでは、看護師が患者のQOL向上に重要な役割を担っている。法制化の時期については意見が分かれているが、このチャンスを逃さないでほしい。
- ・急性重症患者専門看護の立場として意見を述べる。学術性の高い学会として、高度実践のレベルの定義、一般看護師の看護業務、看護師の成長過程、医学モデルと看護モデルを融合した実践のありかた等、学問的な観点から看護科学学会が提示できると、臨床への示唆になる。  
→どのように仕組みをつくっていくかは理事会に持ち帰り、検討したい。
- ・前理事会では、看護系学会協議会の緊急集会において看護科学学会としての意見を提示した。そこでは、看護の基盤に則った形での裁量拡大は必要であるが、ワーキンググループ等で提出される資料は特定医行為のみに偏っている。制度化にむけて、免許と認証制度のどちらか、認証は8ヶ月と2年間(大学院、高度実践看護師)は同様に扱ってよいか等、多くの議論が夏以降されているが、本質が見えなくなってきた。裁量権拡大について取り組む必要

がある。その後、各学会は、各学会の一つのスコープの中で意見集約しやすい状況になっている。例えば、看護系大学協議会では、学部学生や大学院修了後の専門看護師のデータを使いながら、その人達のことにも触れられない点に不満をもち、国にも相談している。看護科学学会の対応については議論が必要と思う。それぞれの組織が色々な立場から意見を述べ、合意が得られていない点もある。従来からの専門看護師も位置づけられたほうがよいと個人的に考える。日本学術会議の看護分科会では、高度実践看護師について、海外での動向をまとめているので参考にさせていただきたい。

→本学会として、本日の意見を集約し、理事会でどのように取り組んでいくかを検討したい。日本学術会議の提言や看護系大学協議会の緊急意見については社員にメールで提供しつつ、理事会で検討する。

- ・本学でも、高度実践看護師のモデル事業を開始しているが、社会一般の人に、看護師の役割や看護学、特定看護師制度化の現状を説明する機会がない。社会貢献事業として、市民と意見交換する必要があるのではないか？  
→来年度以降の社会貢献委員会の事業に反映するとともに、学会としてのあり方の検討も必要と思う。

#### 若手研究者の育成、表彰論文について

- ・表彰論文選考委員会について、若手研究者の奨励賞が限定的である。他学会では、35歳以下の研究者を対象に、学術集会ポスター賞を実施している。表彰論文以外に、様々な賞を設けるのはどうか？  
→表彰論文の選定において、本年度は異なる視点から5つの基準を設けたが、実際にはすべての基準の総合点が高い論文を表彰することになった。まとまりがなくても、キラッと光る論文の表彰や、奨励論文数増加などを、予算の制約内で検討していきたい。学会賞については、研究・学術情報委員会とも相談し、検討していきたい。
- ・奨励賞発表セッションを学術集会で設けるのはいかがか？  
→第32回学術集会長に相談し、前進させたい。

#### 和文誌・英文誌の発行と財政状況について

- ・印刷費と郵送費に合計2,800万円かかっている。会員一人当たり和文誌・英文誌を合わせ6巻入手するが、約4,000円弱となり、会費の多くを占める。学会誌の完全電子化や希望者のみ郵送など、意見を伺いたい。(上泉理事)
- ・英文誌では、アクセプト後の掲載待ちが相当数あるが、3号に増やすことも出版社のコスト削減も困難であり、電子化が必要と考え、次回委員会で検討したい。10年間は会員の目につく紙媒体で行なったが、まだ委員会検討段階ではあるものの、今後は積極的にオンライン化していきたいと考えている。会員管理がEメールで行なわれると、雑誌の発行に合わせてAlertを送ることもできる。電子化に伴い、会員の目に見えなくなる努力が必要と考えている。掲載費、投稿費で赤字をすべて解消しようとすると、1件10万円程度の掲載費になる。米国の雑誌や医学系雑誌ではそのような場合もあるが、若手研究者の育成という点では負担になる。投稿費のみでは赤字解消に直結しない。(グレッグ理事)
- ・文部科学省に学会誌発行の助成金を申請するのはどうか？ 長期間にわたり獲得している学会もある。  
→検討すべき事項の一つと考える。
- ・英文誌については、まだまだ投稿の裾野が広がっていないと感じている。海外からの投稿は増えているが、日本の若手研究者が挑戦する身近な学会誌であってほしい。  
→過去の英文誌は、投稿の数集めに苦心したが、現在は投稿数が増えて掲載数の10倍以上となっている。日本からの投稿が少なく、採択論文のうち、日本人は約半分である。若手を引き付ける方法、オンライン化により紙媒体として目に見えなくなる点への対処についても検討していきたい。
- ・掲載料を取ると、海外からの投稿数が減る。インパクトファクターを上げて、将来的に図書館に電子ジャーナルセットとして購入してもらうのが必要と考える。日本人のための英文誌よりも、アジアの大学などにマーケティングしていくことも方向性の一つではないか？  
→マーケティングを工夫したい。トルコ、イランの投稿が多く、学位論文のPublish先として無料のJJNSが選択されている現状がある。どの国から来ても良質の研究は受け入れたいが、日本人も頑張ってもらいたい。

- ・個人にメールが来ると、特に若い人は閲覧すると思う。あるいはフェイスブックやツイッターを利用している場合もある。
- ・財政安定化に向けて、公益目的事業、収益事業、法人会計の比率をシミュレーションし、再検討していく。
- ・20～30年前の状況から見ると、学会の成長を感じた。

## Ⅶ. 閉会

会場出席数 65 名，委任状 95 名，出席数計 160 名である旨，田代副理事長より報告され，平成 23 年 12 月社員総会が閉会した。

※1 開始時の委任状は 96 名だが，委任状提出者 1 名が出席したため，最終的な委任状は 95 名，会場出席 65 名となった。

この議事録が正確であることを証するため，議長及び議事録署名人により以上の議事を認め記名捺印する。

平成 24 年 1 月 13 日

議長 小松 浩子 (印 省略)  
議事録署名人 成田 伸 (印 省略)  
議事録署名人 北岡 和代 (印 省略)

※本議事録は学会誌掲載の便宜上，資料番号等の表現が原本と異なっている部分があります。



## 第 31 回 公益社団法人日本看護科学学会総会 議事次第

日 時：平成 23 年 12 月 2 日（金）17:00～18:30

場 所：高知市文化プラザかるぼーと 第 3 会場  
（大ホール）

高知市九反田 2-1 TEL：088-883-5011

### I. 開会および理事長挨拶

### II. 議長指名および議事録署名人の承認

### III. 報告事項

1. 理事会報告および社員総会報告
2. 総務報告
3. 選挙管理委員会報告
4. 委員会活動報告
  - 1) 総務委員会
  - 2) 和文誌編集委員会
  - 3) 英文誌編集委員会
  - 4) 研究・学術情報委員会
  - 5) 国際活動推進委員会
  - 6) 看護学学術用語検討委員会
  - 7) 看護倫理検討委員会
  - 8) 社会貢献委員会
  - 9) 表彰論文選考委員会
  - 10) 広報委員会
  - 11) 研究倫理審査委員会
5. 平成 22 年度決算報告
6. 公益社団法人日本看護科学学会平成 23 年度補正予算の報告
7. 公益社団法人日本看護科学学会平成 24 年度事業計画の報告
8. 公益社団法人日本看護科学学会平成 24 年度予算の報告
9. 第 34 回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告
10. その他

### IV. 表彰

### V. 第 32 回日本看護科学学会学術集会会長挨拶

### VI. 閉会

## 第31回 公益社団法人日本看護科学学会総会 議事録

日時：平成23年（2011年）12月2日（金）17:00  
～18:30

場所：高知市文化プラザかるぼーと 第3会場  
（大ホール）

高知県高知市九反田2-1 TEL：088-883-  
5011

出席者：2,755名（会場出席者133名，委任状2,622名）

議長：野嶋佐由美

### I. 開会および理事長挨拶

#### 1. 開会

会場出席正会員数79名，委任状提出者2,630名，合計2,709名（※1）にて，日本看護科学学会の定款第45条に定められた要件である全会員の10分の1の出席を満たしていることが確認され，総会が開会された。

司会は田代順子副理事長，書記は瓜生活子（高知県立大学），藤屋リカ（慶應義塾大学）で行なわれた。

#### 2. 理事長挨拶

小松理事長より，6月より理事会が新体制となったこと，前年度，本学会は設立30周年を迎え，看護系では初めての公益法人格を取得し，新しいステージに立ってスタートを切ったこと，新たなスタートにあたり，新理事会として以下の4つの大きなビジョンを立てたことが説明された。すなわち，①看護学の発展に寄与するような研究の質を担保していくこと，②そのために安定的な財務基盤をつくること，③若手研究者の育成を強化すること，④災害に遭われた方々と力を合わせて看護の新しいケアのあり方を支援すること，具体的には前理事会が示した災害看護支援に関する規程に則り事業として展開していくこと，である。これらのビジョン実現に向けて，学会員とともに学会の発展を目指していく旨が述べられた。

### II. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第44条に従い，議長には第31回日本看護科学学会学術集会（JANS31）の野嶋佐由美集會会長が指名された。また，議事録署名人として，代議員の勝原裕美子氏，森明子氏が選出された。

### III. 報告事項

議長より，学会総会の報告内容は，平成23年12月1日に開催された平成23年12月社員総会における報告内容と同じであることが説明された。

#### 1. 理事会報告および社員総会報告

小松理事長より，資料に基づき，前期および当期理事会について以下の報告がされた。

##### 1) 理事会報告（資料1）

平成22年度第6回理事会（平成23年2月19日開催）では，代議員および役員候補者選出に関する申し合わせの確認と新理事選出までのプロセスの検討を行なった。また，学術集會会長の任期（定款第50条）について，会場確保を確実にこなうために「選任後4年以内」とする案が承認された。

3月18日には，3月11日に発生した東日本大震災を受けて，震災義援金窓口担当引き受けについて電子メールによる書面理事会を行ない，全理事の賛成をもって承認された。

4月14日には，学会事務局の安定的な運営を目的に事務所職員の採用について，電子メールによる書面理事会を行ない，総務会一任とする旨が承認された。

平成23年度第1回理事会（5月14日開催）では，選挙管理委員会からの報告，事業報告と決算報告の承認，災害看護支援事業に関する基金の取り扱い規程の変更などを行なった。

第2回理事会（6月25日開催）では同日の社員総会に向けての確認を行ない，その後で行なわれた社員総会で，新役員17名が承認された。

新役員による臨時理事会（7月31日開催）では，各委員会の所掌理事の決定および委員会活動についての検討，表彰論文選考委員会からの報告を行なった。さらに，災害看護支援事業専門委員会の立ち上げに向けて担当理事および代議員代表も含め計3名の専門委員の決定を行なった。なお，災害看護支援事業に関しては日本看護系学会協議会（JANA）との共同事業として行なうため，専門委員会にはJANAの役員も入ることになった。また，この事業に伴い定款施行細則の変更の検討をした。30周年記念事業に関しては，

記念講演会、記念祝賀会とともに記念誌の編纂を行なうことになり、田代副理事長を委員長とする編纂委員会を立ち上げる旨が承認された。

8月2日には書面理事会にて、災害看護支援事業に伴う定款施行細則の改正案の確認と承認を行なった。

第3回理事会（9月18日開催）では、30周年記念誌編纂委員会から財務事情を鑑み単独の冊子を製作するのではなく、和文誌の中に記念号として組み込む形式とすることが報告された。記念祝賀会については第31回学術集会懇親会と共同で行なうとのことで名称の検討をした。また、第34回学術集会会長の候補者を選出した。名誉会員の候補者については、今年度は該当者なしとなった。災害看護支援事業専門委員会からは、応募に必要な申請書等の書式が整ったことが報告された。

第4回理事会（10月23日開催）では、第31回学術集会の進捗状況の報告、30周年記念事業の報告、学会総会と社員総会の資料の確認、第34回学術集会の集会長の承認を行なった。また、他団体との連携の一環として、JANAの役員候補者に田代副理事長を推薦することとした。

第5回理事会（12月1日開催）では、同日開催の社員総会についての最終確認を行なった。

## 2) 社員総会報告 〈資料2〉

平成23年6月定例社員総会（6月25日開催）は、総社員数202名、出席社員数154名（委任状を含む）で開催され、各委員会および各事業の進捗報告、平成23年度代議員選挙結果の報告および新役員選任案の承認、災害看護支援事業に関する規程取り扱いについて定款変更の承認が行なわれた。

平成23年12月の社員総会（12月1日開催）では、委員会活動報告が行なわれた。また、平成23年度補正予算案、平成24年度事業計画案および予算案についての承認を得た。新理事会では学会財務基盤の安定化を重要課題としており、事業の充実を図りつつ、予算は引き締めていくことを確認した。また、第34回学術集会会長の承認を得た。

以上の報告について、質問や意見はなかった。

## 2. 総務報告 〈資料3〉

萱間理事より、平成23年10月31日現在の会員数について、正会員6,643名、名誉会員11名、賛助会員5件で、総計6,659件であること、平成22年6月

1日現在の正会員数は5,153名で、増加していることが報告された。

以上の報告について質問や意見はなかった。

## 3. 選挙管理委員会報告 〈資料4〉

萱間理事より、6月の定例社員総会で承認を得た内容として、代議員選挙が平成22年9月1日公示、平成23年1月23日投票締め切り、1月30日開票、開票立会人・太田喜久子氏（慶應義塾大学）で実施され、投票率は39.5%であったこと、さらに代議員の中から役員候補者選挙を行なったこと、役員候補者選挙は平成23年2月28日公示、3月25日投票締め切り、4月1日開票、開票立会人・眞嶋朋子氏（千葉大学）で行なわれ、投票率は79.7%であったことが報告された。

以上の報告について質問や意見はなかった。

## 4. 委員会活動報告 〈資料6〉

各委員会より報告がされた。

### 1) 総務委員会

萱間理事より、毎月に入会審査を行ない理事会へ報告し、承認を得るとともに、既入会会員のデータ管理を行なっていること、平成23年4月より会員マイページ制の運用が開始され、会員がオンラインで自己の情報を変更できるようになったことが報告された。また、学会事務所職員の勤務内容の把握・調整・給与の確認を行なっていること、事務所長採用面接を行ない採用が決定したことが報告され、御代田事務所長が紹介された。さらに、定例社員総会および臨時社員総会の準備、30周年記念行事の準備を行ない、各理事会および社員総会の議事録を作成したことが報告された。

### 2) 和文誌編集委員会

上泉理事より、日本看護科学会誌第31巻第3号を9月に発行し、会員6,691名に送付したこと、委員会を1回開催したこと、昨年度からの電子投稿システムへの移行に伴い、担当編集委員が査読者を選定し査読の進行管理をすることになったため編集委員を若干名追加したこと、査読者の増員を図っており次号に氏名を掲載予定であること、日本看護科学会誌の電子ジャーナル化事業を進めており、J-STAGEへの掲載の準備が整い、創刊号よりオンラインで閲覧可能となったこと、電子投稿・査読システムの導入に伴い投稿規程、専任査読委員制度、査読ガイドライン等の改

訂を行なったことが報告された。また、和文誌の迅速な発行へ向けて協力要請がされた。

### 3) 英文誌編集委員会

グレッグ理事より、Holzemer 編集長の来日のもと委員会の引き継ぎを行なったこと、今期の査読委員は18名となったこと、新たな編集委員会の発足に合わせて査読プロセスの円滑化のため、編集委員の仕事内容・手順の明確化をしたこと、6月に Japan Journal of Nursing Science Vol. 8 No. 1 を発刊し、会員6,215名に配布したこと、平成22年度の impact factor は0.034であったことが報告され、投稿、査読への協力要請がされた。また、JJNSセミナーが12月17日(土)に聖路加看護大学にて、Holzemer 編集長を講師に迎え Publishing Your Research in English というテーマで開催されることが紹介された。

### 4) 研究・学術情報委員会

吉沢理事より、委員会を1回、メール会議を1回開催したこと、看護系学会等社会保険連合(看保連)の技術検討部に1回参加したことが報告された。また、委員会での検討内容として、若手研究者の育成および多施設共同研究促進事業の進め方を挙げており、20代の学会員比率が低いため入会を促進していくこと、若手研究者の研究環境を含めたニーズ調査を今年度から次年度にかけて Web 上で行なうことが説明された。

### 5) 国際活動推進委員会

山本理事より、第2回世界看護科学学会(WANS)学術集会が7月14~15日にメキシコのカンクーンで開催され、広報および JANS 会員の参加登録サポートを行なったこと、海外の研究機関・研究助成申請等に関する情報を収集し会員へ情報提供できる仕組みを検討していること、異文化データベースの情報更新について検討中であること、第31回日本看護科学学会学術集会において世界看護科学学会の今後の活動についての交流集会を計画しており、12月3日9:00~10:00にホテル日航高知旭ロイヤルにて開催予定であることが報告された。

### 14) 他機関との連携活動

#### ④世界看護科学学会

山本理事より、第2回世界看護科学学会学術集会会期中に第2回理事会の開催・運営を行ない、第1回

理事会の議事確認、東日本大震災に対する海外からの支援に対するお礼、定款改訂の審議、入会基準や会費に関する議論を行なったこと、その中で、JANS が今後2年間、同事務局を引き続き担い、理事長として南裕子氏が決定したことが報告された。また、2013年の第3回学術集会は韓国看護科学学会(KANS)が引き受けることが決定しており、第4回の候補地としてドイツが挙がっていること、2009年に日本で開催した第1回学術集会の抄録集を Virginia Henderson Library へ登録する準備を広報委員会との連携の下に行なったことが報告された。

### 6) 看護学学術用語検討委員会

和住理事より、委員会を1回開催したこと、前期委員会で「看護学を構成する重要な用語」100語の定義(案)を代議員へ送付して意見を聴取し、それに基づく修正を行ない、「看護学を構成する重要な用語集」の最終案を取りまとめたこと、最終案は今後学会ホームページ等で公表予定であることが報告された。今後、委員会が取り組むべき課題として、看護学学術用語の定期的な見直し、会員や他の看護系学会、他の学問領域の意見を聴取しながら随時更新していく新たなシステム構築が挙げられており、それに向けて活動を行なうことが説明された。

### 7) 看護倫理検討委員会

石井理事より、看護学研究における倫理的課題の整理に向けた実態調査を実施予定で、方法・内容について検討中であること、前期までの委員会で行なってきた各大学の研究倫理審査体制等の問題点明確化と提言を継続し、さらに若手研究者支援のため調査内容を利益相反や介入研究における保証などとし、看護学研究倫理に関する新たな問題意識も盛り込み、実態を把握する目的であることが報告され、調査方法と時期の説明がなされた。

### 8) 社会貢献委員会

高橋理事より、委員会を9月に開催したこと、市民参加行事として第31回学術集会開催時に行なわれる市民フォーラムおよびナーシング・サイエンス・カフェ各事業の概要について検討し、広報委員会の支援のもとに準備を進めてきたこと、各事業の講演者等を検討しメール会議で決定したことが報告された。また、第31回学術集会では、市民フォーラムを12月3日

13:30～15:30に高知城ホールにて「南海地震 来るべき災害に備えて～いのち・くらし・こころを守るために～」をテーマに、次代を担う中学生・高校生に看護を伝える場としてナーシング・サイエンス・カフェを12月3日14:00～16:00に高知市文化プラザかるぽーとにて「看護への招待：命を守りくらしを支える」をテーマに開催することが説明され、参加が呼びかけられた。

#### 9) 表彰論文選考委員会

石垣理事より、メール会議も含め3回の委員会を開催したこと、平成23年9月初旬に本年度の表彰論文候補として選出した和文8論文、英文5論文の採点を役員・正会員に依頼したこと、採点は5つの評価基準をもとに各基準ごとに採点してもらい、10月22日までに返信された回答について集計したこと、それを第3回委員会にて最終選考を行ない、優秀賞論文1編、奨励賞論文1編が選考されたことが報告され、表彰論文名が紹介された。

#### 10) 広報委員会

酒井理事より、委員会を1回開催したこと、主な活動はホームページの維持・管理であり、特に公益法人化に伴う修正、東日本大震災に関連した記事の掲載、第2回世界看護科学学会での記録等を行なったことが報告された。また、第31回学術集会については企画委員会、社会貢献委員会と連携し広報支援を行なっていること、第32回学術集会企画委員会との連携を図っていること、今後、学術集会の記録の仕組みづくり等、将来構想をもとに他委員会と連携しつつ活動を計画していくことが説明された。

#### 11) 研究倫理審査委員会

高木理事より、本委員会は所属する組織に研究倫理審査委員会等がない学会員に対して研究計画の段階からの倫理審査を行なうことを目的としているが、審議すべき事案が申請されなかったため、委員会は開催されなかったことが報告された。

#### 12) 災害看護支援事業専門委員会

岡谷理事より、助成金応募要項および申請書等、必要書類の内容・様式を検討し、理事会の承認を得た上で学会ホームページに情報を掲載したこと、9件の応募があり、審査の結果3件を採択したこと、助成金額

の総額は1,861,280円で、今年度、助成のために集まった募金を使用することが報告された。

#### 14) 他機関との連携活動

##### ②看護系学会等社会保険連合

岡谷理事より、本学会は看護系学会等社会保険連合(看保連)の会員学会になっており、研究・学術情報委員会の委員が代表として同連合・看護技術検討委員会に出席することになっていること、本学会から推薦された岡谷理事が看保連の副代表を務めていることが説明された。また、9月1日に開催された第1回看護技術検討委員会、平成24年の診療報酬改定について、医療技術評価提案書を看保連より合計11件申請し10件が二次審査に進み、厚生労働省からのヒアリング状況について各医療技術評価提案書を提出した学会の委員より報告があったこと、10月19日の第3回役員会では看保連が来年度の総会に法人化を提案する予定で準備を進めていること、役員会を中心に看護技術の体系化に取り組んでおり、年明けに各学会への調査を行う予定であること等を検討したことが報告された。

##### 13) 30周年記念誌編纂委員会

田代副理事長より、10周年、20周年記念合併号をレビューし30周年記念誌の内容を決定したこと、平成24年9月発行の日本看護科学会誌第32巻第3号に合併号として発刊すること、内容はここ10年間の学術集会の動向、学会誌(和文誌・英文誌)の動向、法人化の歩み、学会の将来展望等であり、年内に寄稿依頼をする予定であることが報告された。

#### 14) 他機関との連携活動

##### ①日本看護系学会協議会

田代副理事長より、日本看護系学会協議会所属の会員の寄付金を「災害看護支援金」と位置づけ、本学会を窓口として支援事業を開始することになり、「災害看護支援事業専門委員会」を組織・運営していることが報告された。また、第6回高度実践看護師制度あり方検討会が8月29日に開催され、会員向け広報をしたことが報告された。

##### ③日本学術会議

田代副理事長より、日本看護系学会協議会より提供のあった日本学術会議ニュース・メールの情報を役員に提供したこと、9月6日に同会議より東日本大震災にかかわる協力学術研究団体の活動に関する調査があり、本学会が行なった対応、行動、今後の計画等に関

して回答したことが報告された。

以上の報告に対し、以下の質疑応答が行なわれた。  
〈質問・意見〉

災害看護支援事業の位置づけについて、あくまでも日本看護系学会協議会（JANA）との共同事業として、JANS が会計を担当するという理解であり、JANS の一委員会の活動ではないと思うが、なぜ他機関との連携事業の中に報告が入らないのか？専門委員には JANA の代表が入っており、他学会では日本看護系学会協議会の事業だからこそ JANS に任せた部分や実際の審査を担っている部分があるにもかかわらず、今回の事業報告ではあたかも JANS の一事業の中に組み込まれた形になっているので、今後検討が必要だと考える。

〈回答（小松理事長）〉

指摘のような位置づけであるという認識はあった。本質的には委員会活動という並びに入れるものではないと思うので、事業の形態の位置づけを理事会で再検討したい。災害看護支援事業のあり方は総会資料の最終ページのとおりであり、公益社団法人日本看護科学学会は日本看護系学会協議会との連携のもとに、国内外で発生した災害に対する看護活動を支援することを目的に災害看護支援事業を開始している。本学会は特に公益法人格を有しており、税制の面で寄付者に利点があるといった学会の特長を踏まえた上での連携活動という認識のもとに動いている。

#### 5. 平成 22 年度決算報告 〈資料 7〉

安酸理事より、平成 22 年 6 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日までの収支決算について、資料に基づき報告がされた。

以上の報告について質問や意見はなかった。

#### 6. 公益社団法人日本看護科学学会平成 23 年度補正予算の報告 〈資料 8〉

安酸理事より、資料に基づき平成 23 年度補正予算が報告され、寄付金収入を 100 万円から 300 万円に増額し、200 万円を災害看護支援事業への寄付金としたこと、その他の雑収入に英文誌編集委員会セミナー参加費 46 万円を加算したこと、事業活動支出として災害看護支援事業専門委員会支出 10 万円、災害看護支援事業費支出 187 万円を追加したこと、その結果、

前期繰越収支差額および次期繰越収支差額が修正となったことが説明された。

以上の報告について質問や意見はなかった。

#### 7. 公益社団法人日本看護科学学会平成 24 年度事業計画の報告 〈資料 9〉

小松理事長より、平成 24 年度事業計画として、第 32 回学術集会（JANS32）を慶應義塾大学の太田喜久子氏を学術集会会長として東京国際フォーラムで開催すること、第 33 回・34 回学術集会の準備を行なうこと、和文誌・英文誌の発行を進めること、看護学学術振興対策として看護学学術用語の検討、国際活動の推進、看護倫理の検討と啓発、研究成果の蓄積と活用を行なうこと、学術研究論文の表彰を継続して行なうことが報告された。学会組織の強化・発展については、学会の将来構想に基づく課題に向けていくつかの委員会で事業を展開していくこと、若手育成事業として研究・学術情報委員会では様々なニーズ調査を、看護倫理検討委員会では若手研究者の直面する看護倫理の検討課題の実態把握を行ない、それらを基に事業展開を検討していくことが報告された。また、高度看護実践の動向等に関連した様々な動きの中で、アンブレラ学会としての特長を生かし看護学の知の体系化にどのように貢献できるかを理事会の検討課題とすること、社会貢献活動、広報活動を継続して行なうこと、災害看護支援事業については位置づけを確認した上で発展的に取り組んでいくこと、他機関との連携活動では日本看護系学会協議会、看護系学会等社会保険連合、日本学術会議、世界看護科学学会との連携を図るとともに、その他の機関との連携に関しても時期をみながら検討を重ねること、理事選挙の準備を進めていくこと、30 周年記念事業については記念誌の編纂を行い、新しいステージに向かうに際し、これまでの学会の事業を集積していくこと等が説明された。

以上の報告について質問や意見はなかった。

#### 8. 公益社団法人日本看護科学学会平成 24 年度予算の報告 〈資料 10・11〉

安酸理事より、〈資料 10〉に基づき平成 24 年度予算が報告された。今期は安定した財務基盤構築のため、全体的に 15% 削減を目標に予算を立案したこと、第 32 回学術集会の会場費が割高なことから事業収入と学術集会費支出が前年度より増額となっていること、社会的活動費支出の学会ホームページ維持管理費支出

は組み換えにより管理費支出の委託費支出に組み入れたこと、社員総会を活発にしたいということで社員総会費を多めに見込んでいること、学術集会の会場が高知から東京になったことで事務局の旅費交通費支出を減らしたこと、および、事業活動収支の実質赤字を500万円程度削減した予算計上であることが説明された。

また、平成24年度収支予算書について、公益法人として内閣府に提出する書式の予算書〈資料11〉もあるが、計上区分の関係から従来形式の収支予算書の金額と一部異なることが説明された。

以上の報告について質問や意見はなかった。

#### 9. 第34回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告〈資料12〉

平成26年度開催の第34回学術集会会長として、愛知県立大学の鎌倉やよい氏を選任したことが報告された。

#### 10. その他

なし。

#### IV. 表彰

小松理事長より、学術論文優秀賞受賞者の今戸美奈子氏、池田由紀氏、松尾ミヨ子氏（筆頭者：今戸美奈子氏）、学術論文奨励賞受賞者の小澤未緒氏、佐々木美奈子氏、菅田勝也氏（筆頭者：小澤未緒氏）の名が読み上げられ、賞状と副賞が手渡された。

#### V. 第32回日本看護科学学会学術集会会長挨拶

第32回学術集会会長である慶應義塾大学の太田喜久子氏より、「日本再生のとき、看護学の真価を問う」をテーマに、2012年11月30日～12月1日に東京国際フォーラムで開催される旨の挨拶があり、プログラム案などが紹介された。

#### VI. 閉会

司会の田代副理事長より、最終的な会場出席者は133名、委任状2,622名と合わせて2,755名となったことが報告され、閉会となった。

※1委任状を出していた正会員（2,630名）のうち8名が当日出席したため、委任状の最終的な数は2,622名となった。

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により以上の議事を認め記名捺印する。

平成24年1月14日

議長 野嶋佐由美（印 省略）  
議事録署名人 勝原裕美子（印 省略）  
議事録署名人 森 明子（印 省略）

※本議事録は学会誌掲載の便宜上、資料番号等の表現が原本と異なっている部分があります。

## 公益社団法人日本看護科学学会 役員・社員

理事長 小松 浩子  
副理事長 田代 順子

第 31 回学術集会会長  
野嶋 佐由美

第 32 回学術集会会長  
太田 喜久子

第 33 回学術集会会長  
林 優子

理事：石井 邦子，石垣 和子，岡谷 恵子，上泉 和子，萱間 真美，グレッグ美鈴，酒井 郁子，高木 廣文，高橋 眞理，安酸 史子，山本あい子，吉沢豊予子，和住 淑子

監事：小島 操子，近藤 潤子

名誉会員：飯田澄美子，稲岡 文昭，氏家 幸子，兼松百合子，高橋シユン，林 滋子，樋口 康子，日野原重明，松野かほる，見藤 隆子，山崎 智子

賛助会員：(株)医学書院，(株)南江堂，(株)日本看護協会出版会，(有)ヌーヴェルヒロカワ，(株)へるす出版

(以上，五十音順)

### 社員

#### 【北海道】

石井 トク  
稲葉 佳江  
奥宮 暁子  
近藤 潤子  
中村 恵子  
野川 道子  
平 典子  
三国 久美  
山田 律子  
良村 貞子

#### 【東北】

安藤 広子  
石井 範子  
角濱 春美  
叶谷 由佳  
上泉 和子  
桑名佳代子  
小林 淳子  
佐藤富美子  
塩飽 仁  
徳永 恵子  
中村由美子  
布施 淳子  
吉沢豊予子  
リボウィッツよし子

#### 【北関東】

安梅 勅江  
牛久保美津子  
大塚眞理子  
岡 美智代  
川口 孝泰  
小坂橋喜久代  
佐伯 由香  
高橋 照子  
田村やよひ  
永井 優子  
成田 伸  
縄 秀志  
二渡 玉江  
松田たみ子  
水野 道代  
森 千鶴

#### 【南関東】

青木きよ子  
石井 邦子  
石垣 和子  
大島 弓子  
大室 律子  
岡田 忍  
黒田久美子  
近藤まゆみ  
酒井 郁子  
佐藤 紀子  
佐藤まゆみ  
諏訪さゆり  
高橋 眞理  
谷本眞理子  
中村 伸枝  
野地 有子  
三上 れつ  
宮崎美砂子  
森 明子  
山田 雅子  
山本 利江  
和住 淑子

#### 【東京】

秋山 正子  
麻原きよみ  
有森 直子  
井部 俊子  
江本 リナ  
及川 郁子  
数間 恵子  
金井 PAK 雅子  
萱間 真美  
河口てる子  
川村佐和子  
小松 浩子  
坂本 すが  
佐藤エキ子  
志自岐康子  
高木 廣文  
武井 麻子  
田代 順子  
田中美恵子

筒井真優美  
水流 聡子  
鶴田 恵子  
野末 聖香  
濱口 恵子  
菱沼 典子  
福井トシ子  
操 華子  
宮本 真巳  
山本 則子

#### 【甲信越】

阿保 順子  
内田 雅代  
小林 康江  
清水 嘉子  
征矢野あや子  
中込さと子  
堀内 ふき  
渡辺夕ミ子  
渡辺みどり

#### 【北陸】

稲垣美智子  
上野 栄一  
川島 和代  
北岡 和代  
紺家千津子  
西村真実子

#### 【東海】

明石 恵子  
浅野みどり  
安藤 詳子  
石黒 彩子  
市江 和子  
大津 廣子  
大西 和子  
片岡 純  
勝原裕美子  
鎌倉やよい  
紙屋 克子  
小島 操子  
小西美智子  
小松万喜子  
奈良間美保

野口 眞弓  
藤井 徹也  
村本 淳子  
百瀬由美子  
渡邊 順子

#### 【近畿】

青山ヒフミ  
荒尾 晴恵  
井上 智子  
上野 昌江  
岡谷 恵子  
片田 範子  
勝田 仁美  
金川 克子  
我部山キヨ子  
北村 愛子  
グレッグ美鈴  
黒江ゆり子  
坂下 玲子  
末原紀美代  
鈴木志津枝  
高田 早苗  
高見沢恵美子

田中 京子  
玉木 敦子  
田村 恵子  
近澤 範子  
西村 ユミ  
二宮 啓子  
任 和子  
野並 葉子  
早川 和生  
林 千冬  
林 優子  
前原 澄子  
牧本 清子  
町浦美智子  
山本あい子

#### 【中国・四国】

畦地 博子  
池添 志乃  
猪下 光  
植田喜久子

小笠原知枝  
梶本 市子  
國方 弘子  
久保田聡美  
新道 幸恵  
關戸 啓子  
多田 敏子  
田中マキ子  
津島ひろ江  
時長 美希  
長戸 和子  
中野 綾美  
野嶋佐由美  
深井喜代子  
宮腰由紀子  
森下 利子  
森下 安子  
山勢 博彰  
山田 覚

#### 【九州・沖縄】

石原 逸子  
井上 範江  
宇座美代子  
浦田 秀子  
奥 祥子  
小田 正枝  
嘉手苺英子  
川本利恵子  
北原 悦子  
金城 祥教  
草間 朋子  
斉藤ひさ子  
田中美智子  
中尾 久子  
鳩野 洋子  
東 サト工  
森田 敏子  
安酸 史子  
矢野 正子  
山勢 善江  
李 節子

(以上，202 名  
地区別・五十音順)



## 公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(平成 22 年 12 月 3 日～平成 23 年 12 月 2 日)

### 第 6 回理事会 (前期理事会)

日 時：平成 23 年 2 月 19 日 (土) 13:00～17:30

場 所：日本看護科学学会事務所

(文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室)

出席者：理事 13 名，監事 1 名

〈報告事項〉

平成 22 年度日本看護科学学会第 4 回理事会議事録

および第 5 回理事会議事録

平成 22 年度 12 月社員総会議事録

第 30 回日本看護科学学会総会議事録

〈審議事項〉

1. 学術集会関連
  - ・ 第 30 回日本看護科学学会学術集会の報告
  - ・ 第 31 回日本看護科学学会学術集会の準備状況報告
2. 所属団体からの報告
  - 1) 日本看護系学会協議会 (JANA)
  - 2) 看護系学会等社会保険連合
3. 各委員会報告および審議事項について
  - 1) 総務委員会 (会員異動含む)
  - 2) 和文誌編集委員会
  - 3) 英文誌編集委員会
  - 4) 研究・学術情報委員会
  - 5) 国際活動推進委員会
  - 6) 看護学学術用語検討委員会
  - 7) 看護倫理検討委員会
  - 8) 社会貢献委員会
  - 9) 表彰論文選考委員会
  - 10) 広報委員会
  - 11) 将来構想委員会
  - 12) 研究倫理審査委員会
4. 代議員及び役員候補者選出に関する申し合わせ (案) について
5. 事業報告書の提出について
6. 入会希望者の確認
7. 新理事選任までのプロセスについて
8. 学術集会会長の任期について
9. JANS 事務職員人事について

### 書面理事会 (前期理事会)

日 時：平成 23 年 3 月 18 日 (金)

電子メールを利用

出席者：理事 15 名

〈審議事項〉

日本看護系学会協議会 (JANA) の震災義援金窓口担当引き受けの承認について

### 書面理事会 (前期理事会)

日 時：平成 23 年 4 月 14 日 (木)

電子メールを利用

出席者：理事 15 名

〈審議事項〉

事務所職員 (事務所長候補) の採用決定の一任について

### 第 1 回理事会 (前期理事会)

日 時：平成 23 年 5 月 14 日 (土) 13:00～16:40

場 所：日本看護科学学会事務所

(文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室)

出席者：理事 13 名，監事 1 名，選挙管理委員長 (代理)

〈報告事項〉

平成 22 年度第 6 回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 学術集会関連
  - 1) 第 31 回日本看護科学学会学術集会の準備状況報告
  - 2) 第 32 回日本看護科学学会学術集会の準備状況報告
  - 3) 第 33 回日本看護科学学会学術集会の会場変更について
2. 所属団体からの報告
3. 選挙管理委員会からの報告
4. 各委員会報告および審議事項について
5. 事業報告と決算報告の承認 (平成 23 年度 6 月定例社員総会資料の確認含む・基金取扱規程変更案含む)
6. 災害義援金支援事業について
7. 委員会成果物の公表に関する申し合わせ案につ

いて

8. 代議員及び役員候補者選出に関する申し合わせ(案)について
9. 30周年記念事業について
10. 入会希望者の確認
11. その他

## 第2回理事会〈前期理事会〉

日 時：平成23年6月25日(土) 10:30~12:00

場 所：日本看護科学学会事務所

(文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室)

出席者：理事11名、監事1名、第31回学術集會会長(代理)

〈報告事項〉

平成23年度 第1回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 社員總會の資料確認と役割分担について
2. 各委員会報告および審議事項
3. 次期役員選任案
4. 次期理事長への申し送り事項の整理
5. 入会希望者の承認
6. その他

## 7月臨時理事会〈これより当期理事会〉

日 時：平成23年7月31日(日) 15:00~17:00

場 所：日本看護科学学会事務所

(文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室)

出席者：理事12名、監事2名

〈連絡事項〉

1. 各委員会からの「理事会提出資料」書式の説明
2. 事務所利用規程の説明
3. 事務職員勤務シフトの説明
4. 書記の紹介

〈報告事項〉

平成23年度 第2回理事会議事録

平成23年度 定例社員總會議事録

〈審議事項〉

1. 今後(8月~2月)の理事会日程
2. 各委員会における事業の進捗状況
  - 1) 委員の人選と承認
  - 2) 委員会別予算と執行状況
  - 3) 総務委員会からの報告
  - 4) 和文誌編集委員会からの報告
  - 5) 表彰論文選考委員会からの報告

3. 専門委員会(災害看護支援事業)の立ち上げ
4. 定款施行細則の変更
5. 30周年記念事業について
  - 1) 記念誌編纂委員会の立ち上げ
  - 2) 記念講演会
  - 3) 記念祝賀会と招待者
6. 「JANS31」企画委員の引き継ぎ状況
7. 入会希望者の承認
8. その他

## 書面理事会

日 時：平成23年8月2日(火)

電子メールを利用

出席者：理事15名

〈審議事項〉

1. 災害看護支援事業規程 改正案
2. 災害看護支援事業専門委員会規程(案)

## 第3回理事会

日 時：平成23年9月18日(日) 13:00~17:00

場 所：日本看護科学学会事務所

(文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室)

出席者：理事14名、監事1名、第32回学術集會会長

〈連絡事項〉

12月1~3日行事予定(社員總會、学会總會、祝賀会など)

〈報告事項〉

平成23年度 臨時理事会議事録

平成23年度 8月書面理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第31回 日本看護科学学会学術集會(JANS31)の準備状況
  - 1) 講演・シンポジウムの詳細(講師、会場、時間割など)
  - 2) 30周年記念事業
    - ① 記念誌編纂委員会の進捗状況
    - ② 記念講演会の進捗状況
    - ③ 記念祝賀会の進捗状況
- 正式名「日本看護科学学会設立30周年記念祝賀会」ならびに第31回学術集會懇親会
2. 第32回 日本看護科学学会学術集會(JANS32)の準備状況
3. 第34回 日本看護科学学会学術集會(JANS34)の候補者選出

4. 名誉会員候補の推薦
5. 委員会活動報告および活動計画・予算案の提出について
6. 各委員会における事業の進捗状況
  - 1) 委員の人選と承認（7月臨時理事会以降の追加）
  - 2) 総務委員会からの報告
  - 3) 和文誌編集委員会からの報告
  - 4) 英文誌編集委員会からの報告
  - 5) 研究・学術情報委員会からの報告
  - 6) 国際活動推進委員会からの報告
  - 7) 看護学学術用語検討委員会からの報告
  - 8) 看護倫理検討委員会からの報告
  - 9) 社会貢献委員会からの報告
  - 10) 表彰論文選考委員会からの報告
  - 11) 広報委員会からの報告
7. 災害看護支援事業および同専門委員会の進捗状況
8. 12月社員総会の準備
9. 第31回学会総会の準備
10. 入会希望者の承認
11. その他

#### 第4回理事会

日時：平成23年10月23日（日）13:00～17:15

場所：日本看護科学学会事務所

（文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）

出席者：理事13名、監事2名、第31回学術集會会長（代理）、第32回学術集會会長

〈連絡事項〉

12月1～3日行事（社員総会、学会総会、祝賀会など）出欠確認

〈報告事項〉

平成23年度第3回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第31回日本看護科学学会学術集會（JANS31）の進捗状況
  - 1) 全体報告
  - 2) 各委員会企画の報告
  - 3) 30周年記念事業
    - ①記念誌編集委員会の準備状況
    - ②記念講演会の報告
    - ③記念祝賀会の報告
2. 社員総会と学会総会の資料確認

- 1) 12月社員総会の資料確認
- 2) 第31回学会総会の資料確認
- 3) 委員会の活動計画および来年度予算案
- 4) 社員総会の進行と役割分担
- 5) 学会総会の進行と役割分担
3. 委員会の今年度予算執行状況
4. 第32回日本看護科学学会学術集會（JANS32）の概要報告
5. 第34回日本看護科学学会学術集會（JANS34）の集會会長承認
6. JJNS 10周年記念事業の企画
7. 「学術集會開催に関する申し合わせ」の改正案
8. 各委員会における事業の進捗状況
  - 1) 委員の人選 \*第3回理事会以降の追加
  - 2) 総務委員会からの報告
  - 3) 和文誌編集委員会からの報告
  - 4) 英文誌編集委員会からの報告
  - 5) 研究・学術情報委員会からの報告
  - 6) 国際活動推進委員会からの報告
  - 7) 看護学学術用語検討委員会からの報告
  - 8) 看護倫理検討委員会からの報告
  - 9) 社会貢献委員会からの報告
  - 10) 表彰論文選考委員会からの報告
  - 11) 広報委員会からの報告
  - 12) 研究倫理審査委員会からの報告
  - 13) 災害看護支援事業専門委員会からの報告
  - 14) 他団体との連携について
    - ・JANA 役員候補者（被選挙人）の推薦について
9. 入会希望者の承認
10. その他

#### 第5回理事会

日時：平成23年12月1日（木）14:00～16:00

場所：高知市文化プラザ かるぽーと 9F 第1学習室

出席者：理事15名、監事1名、第31回学術集會会長

〈報告事項〉

第31回学術集會（JANS31）会長からの報告

〈審議事項〉

1. 社員総会資料の最終確認（12月1日 17:30～20:30 かるぽーと／大講義室）
2. 社員総会／役割分担シナリオの最終確認

3. 学会総会資料の最終確認（12月2日 17:00～18:30 かるぼーと／大ホール）
4. 学会総会／役割分担シナリオの最終確認
5. 30周年記念祝賀会ならびに第31回学術集会懇親会について  
（12月2日 19:00～20:30 ホテル日航高知旭ロイヤル／ゴールデンパシフィック）
6. 30周年記念講演について（12月3日 13:00～14:00 かるぼーと／大ホール）
7. 各委員会における事業の進捗状況 ※必要な委員会のみ
8. 入会希望者の承認
9. その他

## 公益社団法人日本看護科学学会 社員総会報告

(平成22年12月3日～平成23年12月1日)

### 平成23年6月定例社員総会

日時：平成23年6月25日(土) 14:00～17:00  
場所：東京大学 医学部教育研究棟13階 第6セ  
ミナールーム  
東京都文京区本郷7-3-1

総社員数：202名

出席社員数：154名(うち委任状 113名)

- I. 開会および理事長挨拶
- II. 議長指名および議事録署名人の承認
- III. 報告事項
  1. 理事会報告および社員総会報告
  2. 総務報告
  3. 選挙管理委員会の報告
  4. 将来構想に関する報告書
- IV. 審議事項

#### 【1】平成22年度事業報告の承認

1. 第30回日本看護科学学会学術集会開催
  2. 第31回日本看護科学学会学術集会準備
  3. 和文誌の発行
  4. 英文誌の発行
  5. 看護学学術振興対策
    - 1) 看護学学術用語の検討
    - 2) 国際活動の推進
    - 3) 看護倫理の検討と啓発
    - 4) 研究成果の蓄積と活用
  6. 学術研究論文の表彰
  7. 学会組織の強化・発展
    - ・将来構想についての検討
  8. 社会貢献活動
  9. 広報活動
  10. 他機関との連携活動
    - 1) 日本看護系学会協議会
    - 2) 看護系学会等社会保険連合
    - 3) 世界看護科学学会
    - 4) 日本学術会議
  11. 代議員選挙
- 【2】平成22年度決算の承認および会計監査の報告
- 【3】役員選任案の承認
- 【4】定款変更案の承認

### V. 閉会

### 平成23年12月社員総会

日時：平成23年12月1日(木) 17:30～20:30  
場所：高知市文化プラザかるぼーと 大講義室  
高知市九反田2-1 TEL：088-883-5011

- I. 開会
- II. 理事長挨拶
- III. 第31回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶
- IV. 議事録署名人の承認
- V. 報告事項

1. 理事会報告および社員総会報告
2. 総務報告
3. 委員会活動報告
  - 1) 総務委員会
  - 2) 和文誌編集委員会
  - 3) 英文誌編集委員会
  - 4) 研究・学術情報委員会
  - 5) 国際活動推進委員会
  - 6) 看護学学術用語検討委員会
  - 7) 看護倫理検討委員会
  - 8) 社会貢献委員会
  - 9) 表彰論文選考委員会
  - 10) 広報委員会
  - 11) 研究倫理審査委員会
  - 12) 災害看護支援事業専門委員会
  - 13) 30周年記念誌編纂委員会
  - 14) 他機関との連携活動
    - ①日本看護系学会協議会
    - ②看護系学会等社会保険連合
    - ③日本学術会議
    - ④世界看護科学学会

### VI. 審議事項

1. 公益社団法人日本看護科学学会平成23年度補正予算案の承認
2. 公益社団法人日本看護科学学会平成24年度事業計画案の承認
3. 公益社団法人日本看護科学学会平成24年度予算案の承認
4. 第34回日本看護科学学会学術集会会長の承認

### VII. 閉会

## 総務報告

### 1. 会員推移(平成22年6月1日～平成23年10月31日)

平成22年6月1日～平成23年3月31日(平成22年度)

#### ①正会員数増減

- 1) 平成22年6月1日正会員数  
5,153名
- 2) 平成22年度の入会者(平成22年6月1日～平成23年3月31日)  
1,049名=新規入会 482名+再入会 19名  
+資格喪失1年未満の再入会 548名
- 3) 平成22年度の死亡喪失者 4名
- 4) 平成22年度期中退会 8名

②賛助会員増減 なし

③名誉会員増減 なし

平成23年4月1日～平成23年10月31日

#### ①正会員数増減

- 1) 平成23年4月1日正会員数  
5,964名=平成23年3月31日正会員数 6,190名  
-平成23年度資格喪失者 226名

(自主退会 153名, 会費未納 73名)

2) 平成23年度の入会者

681名=新規入会 603名+再入会 78名

3) 平成23年度の死亡喪失者 2名

②賛助会員増減 なし

③名誉会員増減 なし

④平成23年10月31日現在 会員数

正会員 6,643

名誉会員 11

高橋シュン 山崎智子 松野かほる 氏家幸子

見藤隆子 兼松百合子 林 滋子 飯田澄美子

日野原重明 稲岡文昭 樋口康子

賛助会員 5

(株)医学書院 (株)へるす出版 (株)南江堂

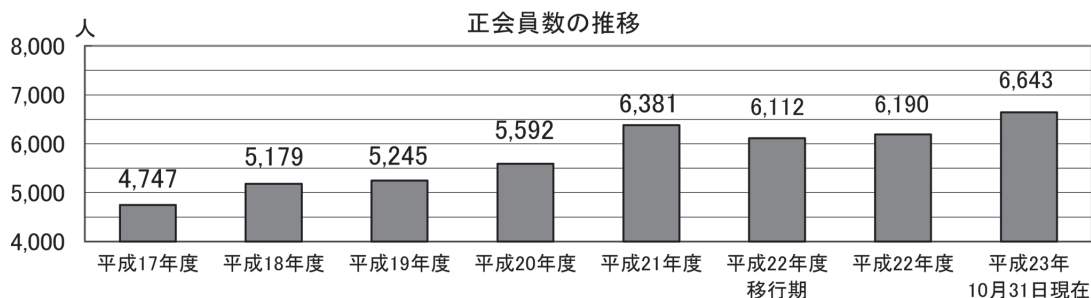
(株)日本看護協会出版会 (有)ヌーヴェルヒロカワ

会員総数 6,659

### 2. 地区別正会員数

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数
北海道 302	北海道	302	北陸 195	富山	48	九州・沖縄 698	福岡	331
東北 427	青森	115		石川	101		佐賀	30
	岩手	46	福井	46	長崎		50	
	宮城	117	東海 654	静岡	146		熊本	65
	秋田	52		愛知	273		大分	46
北関東 558	山形	54	岐阜	95	宮崎		51	
	福島	43	三重	140	鹿児島		42	
南関東 740	茨城	127	近畿 1,049	滋賀	75	合計	6,643	
	栃木	102		京都	153			
	群馬	106		大阪	363			
埼玉	223	兵庫		382	・名誉会員 11 ・賛助会員 5			
甲信越 285	千葉	295	奈良	51				
	神奈川	445	和歌山	25				
東京 964	海外	22	中国・四国 771	取根		33		
				鳥島		46		
岡山	139							
広島	188							
山口	47							
徳島	55							
香川	67							
愛媛	60							
高知	136							

### 3. 正会員数の推移(年度別)



## 選挙管理委員会報告

### 選挙管理委員会

太田勝正（委員長）、小幡光子、武田利明、香春知永、藤田佐和

定款第 18 条にもとづく代議員選挙および同じく第 27 条にもとづく役員候補者の選出を行ったので、その経過等を報告する。

### 1. 代議員選挙について

#### 1) 選挙日程

公示：平成 22 年 9 月 1 日

選挙人名簿作成：平成 22 年 10 月 29 日

地区別被選挙人名簿（投票用紙を兼ねる）：平成 22 年 12 月 20 日

投票締め切り：平成 23 年 1 月 23 日

開票：平成 23 年 1 月 30 日 13 時

開票立会人：太田喜久子先生（慶應義塾大学看護医療学部）

代議員並びに次点者名簿の理事会への提出：平成 23 年 2 月 28 日

#### 2) 開票作業について

- ・ 予め検討した投票の無効／有効の判定基準に基づいて、開票作業を行った。

- ・ 下記の開票結果（無効票を含む）については、平成 23 年 2 月 28 日に理事会に報告した。

- ・ 正会員数 6,064 名（平成 22 年 10 月 29 日現在＝代議員定数算定日）

- ▶ 総選挙人数 6,056 名  
（住所不明者 8 名を除く）

- ▶ 被選挙人数 5,993 名  
（2 期連続代議員を除く）

- ▶ 投票総数 2,391 件

- ▶ 投票率 39.5%

（有効数 2,168 件、無効数 223 件）

#### 3) 代議員選挙の総括

- ・ 被選挙人と選挙人の資格を確定する日付が、公示等に明確に示されていなかった点について、次回選挙で改善の必要がある。

- ・ 投票率 39.5% は、むしろ前回の代議員選挙（平

成 19 年 7 月 45.7%）と比べてやや低い数値であり、今回新たに採用したマークシート方式の投票方式が、投票行動に若干の影響を与えた可能性を否定できない。

- ・ また、無効票の中に地域ごとの定足数を超える数のマークが記されたものが 147 件（無効票の 66%）あり、それらが定足数の多い地区で多い傾向があったことを踏まえて、より確実な投票方法について、検討する必要性が示された。電子投票の可能性、マークシートの改善（被選挙人名簿をもとに定足数分の枠しか示されていない投票用シートに番号をマークする方法）などについて、検討する必要がある。

- ・ 代議員の就任手続きについて、期限内に「承諾しない」旨の回答がないものを承諾したものと取り扱うことについては、選挙事務手続き上の負担が軽減され、有効であったと考える。ただし、期限後に不承諾を申し出る当選者が数名いたことを考えれば、代議員への当選と就任の手続きについて、もう少し判りやすい通知法についても検討の余地があると考えられる。

### 2. 役員候補者選挙について

#### 1) 選挙日程

公示：平成 23 年 2 月 28 日

被選挙人名簿（投票用紙を兼ねる）発送：平成 23 年 3 月 4 日

投票締め切り：平成 23 年 3 月 25 日

開票：平成 23 年 4 月 1 日 13 時

開票立会人：眞嶋朋子先生（千葉大学看護学部）

役員候補者名簿の理事会への提出：平成 23 年 5 月 14 日

#### 2) 開票作業について

- ・ 予め検討した投票の無効／有効の判定基準に基づいて、開票作業を行った。

- ・ 代議員数 202 名

- ▶ 理事候補者被選挙数 201 名  
（3 期連続理事 1 名を除く）

- ▶ 監事候補者被選挙数 202 名

- ▶ 投票総数 162件 (有効票 161件)
- ▶ 投票率 79.7%
- ▶ 有効数 理事 152件 (無効票 9件)  
監事 154件 (無効数 7件)

### 3) 役員候補者選挙の総括

- ・ 理事候補者の投票については、定足数の一部 (今回 11名) の選出に対して 5名を選んで投票することになっているが、投票要領やマークシートの注記にかかわらず 11名を選択するもの、また、両面のマークシートであったためにそれぞれの面について 5名を選択するものがあった。全体で 5名の選出ではなく、総選出数 (今回 11名) 以内を選出する方法などへの投票方法の見直し

について、検討する必要があると思われた。

- ・ 監事候補者の投票についても、同様に総選出数 (2名) の選出や片面ずつ 1名を選出するものがあった。
- ・ 当初の当選者 (上位 11名) について、役員候補となることを「承諾しない (辞退する)」者が半数を超えた。先の選挙で当選した代議員が自動的 (3期連続に理事を務めている者は除く) に役員候補選挙の被選挙権人となる現行選挙方法について、代議員への就任の際に役員となることへの意向を予め聞いておくなど、再考の余地があるのではないかと思われた。



## 公益社団法人日本看護科学学会 平成 23 年度委員会名簿および分掌事項

委員会	役 職	氏 名	会 務 分 掌
総務	委員長	菅間 真美 安酸 史子 濱口 恵子	・会員管理 ・入会審査 ・学会事務所の運営（総務会にて検討）
和文誌編集	委員長	上泉 和子 安酸 史子 荒尾 晴恵 宇佐美しおり 黒江 ゆり子 齋藤 やよい 坂下 玲子 鈴木 真知子 竹崎 久美子 田中 美智子 中村 由美子 中村 順子 成田 伸 野澤 美江子 野地 有子 林 千冬 前田 樹海 眞嶋 朋子 森山 美知子 木村 恵美子	・会誌の発行（年 4 号以上） ・学会誌への投稿の促進 ・査読システムの改良 ・論文電子化に伴う著作権の整備（機関リポジトリへの対応） ・表彰論文選考への参画 ・On-line journal の推進
英文誌編集	編集長 委員長	William L. Holzemer グレッジ美鈴 安部 陽子 石原 逸子 和泉 成子 江本 リナ 岡田 彩子 小澤 三枝子 北岡 和代 佐々木美奈子 鈴木 英子 田代 順子 永田 智子 野口 眞弓 深井 喜代子 堀内 成子 眞壁 玲子 松尾 ミヨ子 江藤 宏美	・英文誌の発行（年 2 号） ・査読システムの整備 ・投稿論文促進のための広報活動 ・和文誌編集委員会との協働 ・表彰論文選考への参画 ・今後のニーズに合わせた出版形態の検討 ・認知度向上のための活動
研究・学術情報	委員長	吉沢 豊予子 岡谷 恵子 柏木 聖代 河野 あゆみ 高見沢恵美子 奈良間 美保 深堀 浩樹 宮下 光令 跡上 富美	・内外の看護学研究に関する情報の収集、整理、発信 ・研究成果が診療報酬に適切に反映できるような活動の推進
国際活動推進	委員長	山本 あい子 近藤 暁子 酒井 郁子 下平 唯子 南 裕子 長坂 桂子	・国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築 ・世界看護科学学会事務局業務

委員会	役 職	氏 名	会 務 分 掌
看護学学術用語検討	委員長 会計	和住 淑子 大島 弓子 大森 純子 小坂橋喜久代 佐藤 和佳子 手島 恵 長戸 和子 石丸 美奈	・看護学学術用語に関する現状と展望の検討
看護倫理検討	委員長 会計	石井 邦子 亀井 智子 野村 美香 宮林 郁子 宮脇 美保子 川城 由紀子	・研究者のモラル向上に向けた活動 ・看護学研究における倫理審査体制の構築 ・看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応 ・看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集・提供と、学会としての対応案の検討
社会貢献	委員長 会計	高橋 眞理 川上 理子 近藤 まゆみ 武田 祐子 永井 優子 リボウィッツ よし子 小島 ひで子	・一般市民に向けた活動 ・看護学を通じた社会への貢献およびその方策の検討・普及 ・学術集会開催時の他に社会貢献の実績を残す（市民公開講座、出版等） ・次世代の育成事業
表彰論文選考	委員長 会計	石垣 和子 上泉 和子 グレッグ美鈴 浅野 みどり 山本 則子 川島 和代	・和文誌・英文誌投稿論文からの表彰候補論文選考作業の円滑な運営 ・学会としての表彰論文の推薦 ・看護学への功績（学問の体系化等）のある人への表彰についての検討 ・他団体からの表彰に該当する候補者の推薦
広報	委員長 会計	酒井 郁子 清水 安子 林 直子 藤田 冬子 渡辺 かづみ 綿貫 成明 黒河内 仙奈	・ホームページ（JANS/WANS）の維持・管理・改善 ・学会活動の広報（委員会成果物のHP掲載等） ・学術集会の広報（プレスリリース等） ・WANS 本部・WANS 学術集会の広報 ・学術集会の記録
研究倫理審査	委員長 外部委員 外部委員 外部委員	高木 廣文 勝原 裕美子 佐居 由美 掛江 直子 中村 通子 森山 幹夫	・学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査
災害看護支援 事業専門	委員長	岡谷 恵子 高橋 眞理 太田 喜久子 田中 美恵子 田村 やよひ	災害看護活動を支援するために以下の事項について協議及び審議を行う。 ・募金に関する事項 ・広報に関する事項 ・災害看護支援金の申請者等の選定の審査に関する事項 ・その他必要な事項
30周年記念誌編纂	委員長	田代 順子 小松 浩子 萱間 真美 安酸 史子 上泉 和子 グレッグ美鈴 山本 あい子	・本学会 30 周年の記念事業の一貫として、記念誌を計画し編纂する。
選挙管理	委員長 副委員長 書記 庶務 庶務補佐	太田 勝正 小幡 光子 武田 利明 香春 知永 藤田 佐和	・理事会からの委嘱により組織し、代議員および役員候補者選挙を行う。

## 委員会活動報告

### 1) 総務委員会

- ・月次で入会審査を行い理事会へ報告するとともに、既に入会している会員のデータを管理している。平成 23 年 4 月より会員管理オンラインシステムを導入し、マイページの運用を開始した。
- ・学会事務所職員の勤務内容の把握、調整、給与の確認、事務所長採用に向けた面接を行った。
- ・定例社員総会および臨時社員総会準備、30 周年記念式典準備を行った。
- ・各理事会、社員総会の議事の記録を担当した。

### 2) 和文誌編集委員会

- ・日本看護科学会誌第 31 巻第 3 号 (平成 23 年 9 月) を発行し、会員 6,691 名に頒布した。
- ・編集委員会を 1 回開催した。
- ・編集委員を追加した。
- ・査読者の増員をはかった。
- ・日本看護科学会誌の電子ジャーナル (J-STAGE) 掲載事業を進めた。
- ・電子投稿・査読システムの導入による、投稿規程、専任査読委員制度、査読ガイドラインの改訂を行った。

### 3) 英文誌編集委員会

- ・Holzemer 編集長が来日のもと、英文誌編集委員会の引き継ぎを行った。
- ・編集委員の編成を行い、今期の編集委員は 18 名になった。
- ・新たな編集委員会の発足に合わせて、査読プロセスを円滑に進めるために、編集委員の仕事内容・手順の明確化を行った。
- ・Japan Journal of Nursing Science Vol. 8 No. 1 (平成 23 年 6 月) を発刊し、6,215 名に頒布した。
- ・平成 22 年度の impact factor は、0.034 であった。

### 4) 研究・学術情報委員会

- ・研究・学術情報委員会を 1 回、メール会議を 1 回開催した。
- ・看保連に 1 回参加した。

- ・メール会議にて、若手研究者育成事業および多施設共同研究促進事業の進め方について検討した。

### 5) 国際活動推進委員会

- ・第 2 回世界看護科学学会 (WANS) 学術集会の広報を行い、JANS 会員の参加登録のサポートを行った。
- ・学術集会の抄録集を Virginia Henderson Library へ登録する準備を、広報委員会との連携のもとに行った。
- ・海外の研究機関、研究助成申請等に関する情報を収集し、会員へ情報提供できる仕組みを検討している。
- ・第 31 回学術集会において、交流集会開催の計画を立案した。
- ・異文化データベースの情報更新について、検討中である。
- ・次年度の活動ならびに予算案を検討した。

### 6) 看護学学術用語検討委員会

- ・看護学学術用語検討委員会を 1 回開催した。
- ・「看護学を構成する重要な用語」100 語の定義(案)を代議員へ送付して意見を聴取し、それに基づく修正を行い、「看護学を構成する重要な用語集」最終案をとりまとめた。最終案については、学会ホームページ等で公表する計画である。
- ・今後、看護学学術用語検討委員会が取り組むべき課題について、自由討議を行った。1986 年に当委員会が発足して以来 25 年が経つことから、看護学学術用語を定期的に見直し、会員や他の看護系学会、他の学問領域の意見を聴取しながら、随時更新していく新たなシステムを構築する必要があるという意見が出された。今後は、新たなシステムづくりに向けた活動を行っていくことを申し合わせた。

### 7) 看護倫理検討委員会

- ・看護倫理検討委員会を 2 回開催した。
- ・若手教員、若手研究者が直面する看護学研究にお

ける倫理的問題を整理する目的で「看護学研究における倫理的課題の整備に向けた実態調査」を年度末に実施することを決定した。

- ・実態調査の調査方法及び調査内容について検討した。

#### 8) 社会貢献委員会

- ・社会貢献委員会を9月に1回開催した。
- ・学術集会開催時に行われる市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェ各事業の概要を検討し、委員の中から担当者を決定し、広報委員会の支援のもとに準備を進めていくこととした。また、各事業の講演者等を検討し、最終的にメール会議で決定した。また、今後の詳細は、各担当者を中心にメール会議を開催し、検討・決定していくこととした。

#### 9) 表彰論文選考委員会

- ・表彰論文選考委員会を3回開催した。うち1回はメール会議とした。
- ・平成23年9月初旬、本年度の表彰論文について、第1回委員会及びその後のメール会議で選出した和文8論文、英文5論文の採点を役員・社員に依頼した。なお、採点は5つの評価基準を示し、各々の基準ごとに採点をしてもらった。10月22日までに返信されたものについて集計を行った。
- ・第3回委員会にて表彰論文の最終選考を行い、優秀賞論文1編、奨励賞論文1編が選考された。

#### 優秀賞

今戸美奈子，池田由紀，松尾ミヨ子：  
慢性呼吸器疾患患者における呼吸困難のマネジメント方略とADLの関連，  
日本看護科学会誌，30(1)，14-24，2010。

#### 奨励賞

Mio OZAWA, Minako SASAKI and Katsuya KANDA：  
Effect of procedure light on the physiological responses of preterm infants,  
Japan Journal of Nursing Science, 7(1), 76-83, 2010.

#### 10) 広報委員会

- ・平成22年度広報委員会から業務を引き継いだ。
- ・広報委員会を1回開催した。
- ・ホームページの維持・管理を行った。とくに、公益法人化に伴う修正、東日本大震災に関連した記事等の掲載、第2回世界看護科学学会の記録などを行った。
- ・第31回学術集会について、企画委員会、社会貢献委員会と連携して、ナーシング・サイエンス・カフェ、市民フォーラムの広報支援を担当し、またマスコミに向けてプレスリリースの準備をすすめた。
- ・第32回学術集会企画委員会に出席し連携を促進した。

#### 11) 研究倫理審査委員会

- ・審議すべき事案が申請されなかったため、委員会は開催されなかった。

#### 12) 災害看護支援事業専門委員会

- ・9月16日に第1回委員会を開催し、募集要項および募集に必要な書類等についてその内容と様式を検討した。9月18日に理事会において承認を受けた上で、JANSのHPに助成事業の募集を掲載した。
- ・災害看護支援事業の継続のために募金を広く呼びかけることとし、募金のお願いをHPに掲載した。
- ・10月17日に平成23年度の助成事業について審査を行い、以下の3件を採択した。
  - ①災害支援ジョイントプロジェクト（代表者：宇佐美しおり）
  - ②ケアを媒介にした新しいコミュニティを形成する活動の一環としてのなでしこ茶論（サロン）の運営（代表者：川嶋みどり）
  - ③震災被災地支援のための看護師への在宅看護研修会（代表者：島内節）

#### 13) 30周年記念誌編纂委員会

- ・30周年記念誌編纂委員会を編成し、日本看護科学会誌の平成24年9月発刊の第32巻第3号に、30周年記念合併号を発刊する計画で作業を進めている。

## 14) 他機関との連携活動

## ①日本看護系学会協議会

- ・日本看護系学会協議会（日本看護科学学会災害看護支援事業専門委員会を含む）所属の学会員の寄付金を「災害看護支援金」と位置づけ、本学会を窓口とし、支援事業を開始した。支援事業は、「災害看護支援事業専門委員会」が組織され、運営している。
- ・第6回 高度実践看護師制度あり方検討会【緊急集会】が平成23年8月29日（月）午後3時～5時、慶應義塾大学信濃町キャンパスで開催され、会員に広報を行った。

## ②看護系学会等社会保険連合

- ・9月1日に開催された第1回看護系学会等社会保険連合（看保連）・技術検討委員会に出席した。看保連から提出された医療技術評価提案書（未掲載技術6件、既掲載技術5件）に関する厚生労働省によるヒアリングの状況について、各学会の委員より報告があった。
- ・10月19日に第3回役員会が開催された。役員会では看保連の法人化に向けて検討し、来年度の総会に法人化の提案をする予定である。また、看護技術とは何か、どう定義するのか、看護技術がもたらす成果や看護の価値は何かといったことを検討し、看護の診療報酬・介護報酬での評価に資するよう、「看護技術の体系化」に取り組んでいる。

## ③日本学術会議

- ・日本看護系学会協議会より提供のあった日本学術会議からのニュース・メールの情報を役員に提供した。
- ・9月6日に日本学術会議より東日本大震災にかかわる協力学術研究団体の活動の調査があり、本学会がとった対応、行動又は提言ならびに今後の計画等を回答した。（災害看護支援事業寄付金窓口開設、日本看護科学学会 災害看護支援事業および支援事業の進捗状況について）

## ④世界看護科学学会

- ・国際活動推進委員会がWANS事務局として、平成23年7月14日第2回WANS学術集會会期中に理事会を開催・運営した。理事会では、第1回理事会の議事確認（平成21年開催）、東日本大震災に対する海外からの支援に対するお礼、定款改訂の審議、入会基準や会費に関する議論を行った。また、今後2年間の事務局をJANSが引き続き担うこととなった。
- ・平成25（2013）年の第3回WANS学術集會はKorean Society of Nursing Science（韓国：大会長 Nam Cho Kim）が主催であることを再確認した。さらに、第4回は Association of University Hospital Nursing Directors（ドイツ：Prof. Iris Mienburg-Alwang）が候補となった。

## 公益社団法人日本看護科学学会 平成 22 年度 収支計算書

平成 22 年 6 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	備考	平成 22 年度 予算額 (H. 22. 6. 1～ H. 23. 3. 31)	平成 22 年度 決算額 (H. 22. 6. 1～ H. 23. 3. 31)	差 異
<b>I. 事業活動収支の部</b>				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		1,000	1,290	△ 290
特定資産受取利息収入		1,000	1,290	△ 290
②会費収入		51,661,666	53,681,667	△ 2,020,001
正会員会費収入	※ 1	51,411,666	53,431,667	△ 2,020,001
賛助会員会費収入	※ 2	250,000	250,000	0
③寄付金・助成金収入		1,000,000	2,765,000	△ 1,765,000
寄付金収入		0	1,265,000	△ 1,265,000
助成金収入		1,000,000	1,500,000	△ 500,000
④事業収入		33,220,000	35,333,721	△ 2,113,721
学会誌収入 (講演集含む)		1,800,000	2,042,513	△ 242,513
学術集会参加費収入		25,750,000	26,202,000	△ 452,000
事前登録会員 (1 万円)		10,000,000	9,840,000	160,000
事前登録非会員 (1.2 万円)		2,400,000	3,204,000	△ 804,000
事前登録学部生 (0.3 万円)		60,000	6,000	54,000
当日登録会員 (1.2 万円)		9,000,000	9,192,000	△ 192,000
当日登録非会員 (1.4 万円)		4,200,000	3,780,000	420,000
当日登録学部生 (0.3 万円)		90,000	180,000	△ 90,000
広告販売収入		5,670,000	7,089,208	△ 1,419,208
企業展示出展料		3,150,000	4,506,208	△ 1,356,208
広告掲載料		1,575,000	1,743,000	△ 168,000
スポンサーセミナー		945,000	840,000	105,000
⑤雑収入		1,280,000	1,225,211	54,789
受取利息収入		40,000	24,512	15,488
著作権料収入		100,000	129,236	△ 29,236
懇親会収入		1,100,000	883,000	217,000
その他雑収入		40,000	188,463	△ 148,463
<b>事業活動収入合計 (I a)</b>		<b>87,162,666</b>	<b>93,006,889</b>	<b>△ 5,844,223</b>
2. 事業活動支出				
①事業費支出		72,547,000	67,964,228	4,582,772
学会誌発行費支出		24,150,000	24,497,796	△ 347,796
和文誌編集・印刷費支出		8,780,000	8,669,808	110,192
和文誌発送費支出		2,330,000	2,419,522	△ 89,522
英文誌編集・印刷費支出		12,000,000	12,148,628	△ 148,628
英文誌発送費支出		1,040,000	1,259,838	△ 219,838
編集活動費支出		1,883,000	1,098,518	784,482
和文誌編集委員会費支出		583,000	265,255	317,745
英文誌編集委員会費支出		1,300,000	833,263	466,737
看護学術振興費支出		2,940,000	2,278,806	661,194
看護学術用語検討委員会費支出		680,000	663,328	16,672
国際活動推進委員会費支出		685,000	566,159	118,841
看護倫理検討委員会費支出		500,000	319,824	180,176
研究・学術情報委員会費支出		685,000	415,650	269,350
表彰論文選考委員会費支出		390,000	313,845	76,155

科 目	備考	平成 22 年度 予算額 (H. 22. 6. 1～ H. 23. 3. 31)	平成 22 年度 決算額 (H. 22. 6. 1～ H. 23. 3. 31)	差 異
研究学術活動費支出		3,800,000	3,387,974	412,026
第 30 回学術集会プログラム印刷・送付費支出		2,300,000	2,224,149	75,851
第 31 回学術集会案内印刷・送付費支出		1,110,000	1,049,415	60,585
受賞論文表彰費支出		150,000	114,410	35,590
研究倫理審査委員会費		240,000	0	240,000
研究助成金支出		0	0	0
社会的活動費支出		3,422,000	950,477	2,471,523
社会貢献委員会支出		695,000	335,544	359,456
市民フォーラム開催費	※ 3	400,000	102,533	297,467
学会ホームページ維持管理費支出	※ 4	2,327,000	512,400	1,814,600
総務費支出		1,470,000	1,229,140	240,860
総務委員会費支出		600,000	585,525	14,475
公益法人化推進委員会費支出		30,000	29,800	200
広報委員会費支出		605,000	539,305	65,695
将来構想委員会費支出		235,000	74,510	160,490
学術集会費支出		34,882,000	34,521,517	360,483
人件費支出		1,898,000	606,350	1,291,650
第 30 回	※ 5	1,670,000	420,000	1,250,000
第 31 回		228,000	186,350	41,650
諸謝金費支出		1,500,000	969,443	530,557
第 30 回		1,500,000	969,443	530,557
第 31 回		0	0	0
会議費支出		534,000	698,870	△ 164,870
第 30 回		470,000	677,763	△ 207,763
第 31 回		64,000	21,107	42,893
会場費支出 (第 30 回)		11,870,000	13,246,875	△ 1,376,875
旅費交通費支出		5,390,000	2,350,118	3,039,882
第 30 回	※ 5	4,360,000	2,111,068	2,248,932
第 31 回	※ 6	1,030,000	239,050	790,950
通信運搬費支出		690,000	508,108	181,892
第 30 回		570,000	305,078	264,922
第 31 回		120,000	203,030	△ 83,030
消耗品費支出		370,000	1,994,876	△ 1,624,876
第 30 回	※ 5	270,000	1,545,325	△ 1,275,325
第 31 回	※ 6	100,000	449,551	△ 349,551
印刷製本費支出		5,170,000	5,415,288	△ 245,288
第 30 回		4,600,000	5,002,788	△ 402,788
第 31 回		570,000	412,500	157,500
委託費支出 (第 30 回)	※ 5	5,200,000	6,728,023	△ 1,528,023
渉外費支出 (第 30 回)		0	182,400	△ 182,400
雑支出		1,160,000	938,166	221,834
第 30 回		1,130,000	938,166	191,834
第 31 回		30,000	0	30,000
懇親会運営費支出 (第 30 回)		1,100,000	883,000	217,000
②管理費支出		37,078,000	35,198,034	1,879,966
給料手当支出		10,740,000	9,764,939	975,061
退職給付支出		234,000	234,000	0
福利厚生費支出		750,000	790,550	△ 40,550
学会総会費		500,000	221,227	278,773
社員総会費		3,196,000	3,330,900	△ 134,900
理事会費		3,010,000	2,446,941	563,059
委託費支出		2,730,000	2,028,039	701,961
渉外費支出		30,000	7,875	22,125

科 目	備考	平成 22 年度 予算額 (H. 22. 6. 1～ H. 23. 3. 31)	平成 22 年度 決算額 (H. 22. 6. 1～ H. 23. 3. 31)	差 異
旅費交通費支出 (通勤費含む)		1,714,000	1,633,540	80,460
通信運搬費支出	※ 7	1,700,000	2,098,674	△ 398,674
消耗品費支出	※ 8	950,000	1,353,814	△ 403,814
印刷製本費支出		200,000	188,527	11,473
慶弔費支出		50,000	0	50,000
光熱水料費支出		550,000	527,408	22,592
賃借料支出		3,617,000	3,724,623	△ 107,623
保険料支出		7,000	5,870	1,130
諸謝金支出		100,000	0	100,000
租税公課支出	※ 9	500,000	469,004	30,996
負担金支出		80,000	80,000	0
修繕費支出		80,000	0	80,000
選挙費用支出		4,840,000	4,419,829	420,171
資格喪失者会費支出	※ 10	900,000	1,350,000	△ 450,000
雑支出		600,000	522,274	77,726
事業活動支出合計 (I b)		109,625,000	103,162,262	6,462,738
事業活動収支差額 (I a)-(I b)		△ 22,462,334	△ 10,155,373	△ 12,306,961
<b>II 投資活動収支の部</b>				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入		5,074,000	4,653,829	420,171
選挙積立取崩収入		4,840,000	4,419,829	420,171
退職給付引当資産取崩収入		234,000	234,000	0
投資活動収入合計 (II a)		5,074,000	4,653,829	420,171
2. 投資活動支出				
①特定財産取得支出		1,150,000	1,251,148	△ 101,148
選挙積立預金支出		1,000,000	1,000,893	△ 893
退職給付引当資産取得支出		150,000	250,255	△ 100,255
②固定資産取得支出		200,000	0	200,000
什器備品購入支出		200,000	0	200,000
③その他投資活動支出		0	△ 87,537	87,537
事務所更新料・火災保険料支出		0	△ 87,537	87,537
投資活動支出合計 (II b)		1,350,000	1,163,611	186,389
投資活動収支差額 (II a)-(II b)		3,724,000	3,490,218	233,782
<b>III 財務活動収支の部</b>				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計 (III a)		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計 (III b)		0	0	0
財務活動収支差額 (III a)-(III b)		0	0	0
IV 予備費支出		3,000,000	0	3,000,000
当期収支差額		△ 21,738,334	△ 6,665,155	
前期繰越収支差額		62,711,227	62,711,227	
次期繰越収支差額	※ 11	40,972,893	56,046,072	

※ 1 平成 22 年 6 月 1 日～ 23 年 3 月 31 日までの正会員数 (会費請求数) 6,202 名。うち 5 月 31 日時点での正会員 (5,153 名) の会費は、10,000 円×10/12 ヶ月分×5,153 で計算 (期間按分)。6/1 以降の入会者 (1,049 名) の会費収入は 10,000 円×1,049 で計算。

※ 2 (株)日本看護協会出版会 2 口、(株)医学書院・(株)南江堂・(株)へるす出版・(有)ヌーヴェルヒロカワ各 1 口。会費 1 口 50,000 円×10/12 ヶ月分を計上。

※ 3 会場費は学術集会の会場費 (12 月 3 日全館貸切) として一括支出したため予算を下回った。



- ※ 4 既存論文データベース J-STAGE 掲載（掲載後 1 年を経過した論文の一般公開化）作業が委託業者の事情により期限内に完了せず、来年度に持ち越されたため、予算を下回った。
- ※ 5 ボランティアの活用により人件費が抑えられた。また遠方委員の欠席やメール等の活用により旅費交通費が予算を下回った。その差額分を消耗品費および業者委託費用に充当した。
- ※ 6 遠方委員の欠席やメール等の活用により、企画委員会旅費交通費が予算を下回った。その差額を消耗品費（広報用）に充当した。
- ※ 7 会員数の増加が見積もりを上回ったため、会員向け発送費用が予算を上回った。
- ※ 8 世界看護科学学会第 2 回学術集会のチラシ印刷を学会事務所で行ったため、カラーインク代相当分が予算を上回った。
- ※ 9 収益事業（学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入）に関わる法人税および法人事業税は 0 円、法人都民税 58,000 円（均等割 7 万円の 10/12 ヶ月相当額）、消費税課税売上高（学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など）から簡易課税方式にて計算した消費税は 392,700 円、その他（収入印紙代等）。
- ※ 10 平成 22 年 4 月 1 日付資格喪失者のうち、平成 23 年 3 月 31 日までに未納会費を納入し再入会した者以外は、損失分として支出に計上する。
- ※ 11 正味財産期末残高と次期繰越収支差額が一致しない理由：正味財産増減計算書では、経常増減の部で和文誌在庫の期首棚卸高（和文誌発行費項目で計上）、期末棚卸高、減価償却費、退職金給付費用を費用に含めており、また経常外増減、指定正味財産、基金の増減を計算しているが、収支計算書ではこれらの増減の項目は無い。また、収支計算書では選挙積立収支や退職金積立収支を投資活動収支の部で計算している。

## 公益社団法人 日本看護科学学会 平成 23 年度 補正収支予算書

平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで

科 目	備考	平成 23 年度 補正予算額 (H. 23. 4. 1～ H. 24. 3. 31)	平成 23 年度 予算額 (H. 23. 4. 1～ H. 24. 3. 31)	補正差異
<b>I 事業活動収支の部</b>				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		1,000	1,000	0
特定資産受取利息収入		1,000	1,000	0
②会費収入		65,200,000	65,200,000	0
正会員会費収入		64,900,000	64,900,000	0
賛助会員会費収入		300,000	300,000	0
③寄付金・助成金収入		4,000,000	2,000,000	2,000,000
寄付金収入	※ 1	3,000,000	1,000,000	2,000,000
助成金収入		1,000,000	1,000,000	0
④事業収入		27,186,000	27,186,000	0
学会誌収入（講演集含む）		1,806,000	1,806,000	0
学術集会参加費収入		21,480,000	21,480,000	0
事前登録会員（10,000 円）		9,500,000	9,500,000	0
事前登録非会員（12,000 円税込）		3,780,000	3,780,000	0
当日登録会員（12,000 円）		5,400,000	5,400,000	0
当日登録非会員（14,000 円税込）		2,800,000	2,800,000	0
広告販売収入		3,900,000	3,900,000	0
企業展示出展料		1,800,000	1,800,000	0
広告掲載料		1,200,000	1,200,000	0
スポンサードセミナー		900,000	900,000	0
⑤雑収入		1,947,500	1,487,500	460,000
受取利息収入		3,000	3,000	0
著作権料収入		100,000	100,000	0
懇親会収入		1,050,000	1,050,000	0
その他雑収入	※ 2	794,500	334,500	460,000
<b>事業活動収入合計（I a）</b>		<b>98,334,500</b>	<b>95,874,500</b>	<b>2,460,000</b>
2. 事業活動支出				
①事業費支出		72,707,110	70,737,110	1,970,000
学会誌発行費支出		26,144,000	26,144,000	0
和文誌編集・印刷費支出		8,800,000	8,800,000	0
和文誌発送費支出		2,414,000	2,414,000	0
英文誌編集・印刷費支出		13,820,000	13,820,000	0
英文誌発送費支出		1,110,000	1,110,000	0
編集活動費支出		2,097,650	2,097,650	0
和文誌編集委員会費支出		697,650	697,650	0
英文誌編集委員会費支出		1,400,000	1,400,000	0
看護学術振興費支出		5,492,500	3,522,500	1,970,000
看護学術用語検討委員会費支出		1,000,000	1,000,000	0
国際活動推進委員会費支出		620,000	620,000	0
看護倫理検討委員会費支出		590,000	590,000	0
研究・学術情報委員会費支出		820,000	820,000	0
表彰論文選考委員会費支出		492,500	492,500	0
災害看護支援事業専門委員会支出		100,000		100,000
災害看護支援事業費支出	※ 3	1,870,000		1,870,000
研究学術活動費支出		6,047,950	6,047,950	0
第 31 回学術集会プログラム印刷・送付費支出		4,673,750	4,673,750	0

科 目	備考	平成 23 年度 補正予算額 (H. 23. 4. 1～ H. 24. 3. 31)	平成 23 年度 予算額 (H. 23. 4. 1～ H. 24. 3. 31)	補正差異
第 32 回学術集会案内印刷・送付費支出		1,113,200	1,113,200	0
受賞論文表彰費支出		140,000	140,000	0
研究倫理審査委員会費		121,000	121,000	0
社会的活動費支出		2,164,000	2,164,000	0
社会貢献委員会支出		964,000	964,000	0
市民フォーラム開催費		400,000	400,000	0
学会ホームページ維持管理費支出		800,000	800,000	0
総務費支出		2,094,000	2,094,000	0
総務委員会費支出		610,000	610,000	0
公益法人化推進委員会費支出		—	—	—
広報委員会費支出		984,000	984,000	0
将来構想委員会費支出		0	0	0
30周年記念事業費		500,000	500,000	0
学術集会費支出		28,667,010	28,667,010	0
人件費支出		588,000	588,000	0
第 31 回		388,000	388,000	0
第 32 回		200,000	200,000	0
謝金費支出		500,000	500,000	0
第 31 回		500,000	500,000	0
第 32 回		0	0	0
会議費支出		855,000	855,000	0
第 31 回		791,000	791,000	0
第 32 回		64,000	64,000	0
会場費支出 (第 31 回)		10,982,800	10,982,800	0
旅費交通費支出		3,440,000	3,440,000	0
第 31 回		2,840,000	2,840,000	0
第 32 回		600,000	600,000	0
通信運搬費支出		285,000	285,000	0
第 31 回		165,000	165,000	0
第 32 回		120,000	120,000	0
消耗品費支出		370,000	370,000	0
第 31 回		270,000	270,000	0
第 32 回		100,000	100,000	0
印刷製本費支出		5,227,710	5,227,710	0
第 31 回		4,607,710	4,607,710	0
第 32 回		620,000	620,000	0
委託費支出 (第 31 回)		4,505,000	4,505,000	0
渉外費支出 (第 31 回)		100,000	100,000	0
雑支出		763,500	763,500	0
第 31 回		733,500	733,500	0
第 32 回		30,000	30,000	0
懇親会運営費支出 (第 31 回)		1,050,000	1,050,000	0
②管理費支出		36,203,500	36,203,500	0
給料手当支出		13,416,800	13,416,800	0
通勤手当支出		1,570,000	1,570,000	0
退職給付支出		300,000	300,000	0
福利厚生費支出		1,210,000	1,210,000	0
学会総会費		500,000	500,000	0
社員総会費		1,136,000	1,136,000	0
理事会費		2,950,000	2,950,000	0
委託費支出		1,911,600	1,911,600	0
渉外費支出		30,000	30,000	0
旅費交通費支出		450,000	450,000	0

科 目	備考	平成 23 年度 補正予算額 (H. 23. 4. 1～ H. 24. 3. 31)	平成 23 年度 予算額 (H. 23. 4. 1～ H. 24. 3. 31)	補正差異
通信運搬費支出		1,600,000	1,600,000	0
消耗品費支出		950,000	950,000	0
印刷製本費支出		200,000	200,000	0
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		660,000	660,000	0
賃借料支出		4,722,100	4,722,100	0
保険料支出		7,000	7,000	0
諸謝金支出		100,000	100,000	0
租税公課支出		520,000	520,000	0
負担金支出		550,000	550,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
選挙費用支出		940,000	940,000	0
資格喪失者会費支出		1,500,000	1,500,000	0
雑支出		880,000	880,000	0
事業活動支出合計 (I b)		108,910,610	106,940,610	1,970,000
事業活動収支差額 (I a)-(I b)		△ 10,576,110	△ 11,066,110	490,000
<b>II 投資活動収支の部</b>				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入		1,240,000	1,240,000	0
選挙積立取崩収入		940,000	940,000	0
退職給付引当資産取崩収入		300,000	300,000	0
②その他投資活動収入		280,000	280,000	0
事務所更新料収入		280,000	280,000	0
投資活動収入合計 (II a)		1,520,000	1,520,000	0
2. 投資活動支出				
①特定財産取得支出		1,976,834	1,976,834	0
選挙積立預金支出		1,200,000	1,200,000	0
退職給付引当資産取得支出		776,834	776,834	0
②固定資産取得支出		200,000	200,000	0
什器備品購入支出		200,000	200,000	0
③その他投資活動支出		105,000	105,000	0
事務所更新料・火災保険料支出		105,000	105,000	0
投資活動支出合計 (II b)		2,281,834	2,281,834	0
投資活動収支差額 (II a)-(II b)		△ 761,834	△ 761,834	0
<b>III 財務活動収支の部</b>				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計 (III a)		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計 (III b)		0	0	0
財務活動収支差額 (III a)-(III b)		0	0	0
IV 予備費支出		3,000,000	3,000,000	0
当期収支差額		△ 14,337,944	△ 14,827,944	490,000
前期繰越収支差額	※ 4	56,046,072	40,972,893	15,073,179
次期繰越収支差額		41,708,128	26,144,949	15,563,179

※ 1 JANS31 学術集会への寄附金 100 万円, 災害看護支援事業への寄附金 200 万円

※ 2 英文誌編集委員会セミナー参加費 (46 万) を含む

※ 3 災害看護支援事業への寄附金を活用し助成金として支出する

※ 4 平成 22 年 3 月 31 日決算時の繰越収支差額に修正した

## 公益社団法人 日本看護科学学会 平成24年度事業計画

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

1. 第32回日本看護科学学会学術集会開催
2. 第33回・第34回日本看護科学学会学術集会準備
3. 和文誌の発行
4. 英文誌の発行
5. 看護学学術振興対策
  - 1) 看護学学術用語の検討
  - 2) 国際活動の推進
  - 3) 看護倫理の検討と啓発
  - 4) 研究成果の蓄積と活用
6. 学術研究論文の表彰
7. 学会組織の強化・発展
  - ・将来構想に基づく新たな展開への準備
8. 社会貢献活動
9. 広報活動
10. 災害看護支援事業
11. 他機関との連携活動
  - 1) 日本看護系学会協議会
  - 2) 看護系学会等社会保険連合
  - 3) 日本学術会議
  - 4) 世界看護科学学会
  - 5) その他の機関
12. 理事選挙準備
13. 30周年記念事業

## 公益社団法人 日本看護科学学会 平成 24 年度 収支予算書

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで

科 目	備考	平成 24 年度 予算額 (H. 24. 4. 1～ H. 25. 3. 31)	平成 23 年度 補正予算額 (H. 23. 4. 1～ H. 24. 3. 31)	差 異
<b>I 事業活動収支の部</b>				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		1,000	1,000	0
特定資産受取利息収入		1,000	1,000	0
②会費収入		71,100,000	65,200,000	5,900,000
正会員会費収入	※ 1	70,800,000	64,900,000	5,900,000
賛助会員会費収入	※ 2	300,000	300,000	0
③寄付金・助成金収入		2,500,000	4,000,000	△ 1,500,000
寄付金収入	※ 3	2,500,000	3,000,000	△ 500,000
助成金収入		0	1,000,000	△ 1,000,000
④事業収入		41,092,000	27,186,000	13,906,000
学会誌収入（講演集含む）		1,932,000	1,806,000	126,000
学術集会参加費収入		30,560,000	21,480,000	9,080,000
事前登録会員（10,000 円）		11,800,000	9,500,000	2,300,000
事前登録非会員（12,000 円税込）		5,040,000	3,780,000	1,260,000
事前登録学部生（4,000 円）		80,000	0	80,000
当日登録会員（12,000 円）		9,360,000	5,400,000	3,960,000
当日登録非会員（14,000 円税込）		4,200,000	2,800,000	1,400,000
当日登録学部生（5,000 円）		80,000	0	80,000
広告販売収入		8,600,000	3,900,000	4,700,000
企業展示出展料		4,995,000	1,800,000	3,195,000
広告掲載料		1,613,000	1,200,000	413,000
スポンサーセミナー		1,992,000	900,000	1,092,000
⑤雑収入		1,143,000	1,947,500	△ 804,500
受取利息収入		3,000	3,000	0
著作権料収入		100,000	100,000	0
懇親会収入		640,000	1,050,000	△ 410,000
その他雑収入	※ 4	400,000	794,500	△ 394,500
<b>事業活動収入合計（I a）</b>		<b>115,836,000</b>	<b>98,334,500</b>	<b>17,501,500</b>
2. 事業活動支出				
①事業費支出		83,020,785	72,707,110	10,313,675
学会誌発行費支出		28,347,000	26,144,000	2,203,000
和文誌編集・印刷費支出	※ 5	10,008,000	8,800,000	1,208,000
和文誌発送費支出		2,688,000	2,414,000	274,000
英文誌編集・印刷費支出	※ 6	14,516,000	13,820,000	696,000
英文誌発送費支出		1,135,000	1,110,000	25,000
編集活動費支出		1,785,000	2,097,650	△ 312,650
和文誌編集委員会費支出		600,000	697,650	△ 97,650
英文誌編集委員会費支出	※ 7	1,185,000	1,400,000	△ 215,000
看護学術振興費支出		4,404,400	5,492,500	△ 1,088,100
看護学術用語検討委員会費支出		800,000	1,000,000	△ 200,000
国際活動推進委員会費支出		526,000	620,000	△ 94,000
看護倫理検討委員会費支出		491,000	590,000	△ 99,000
研究・学術情報委員会費支出		485,400	820,000	△ 334,600
表彰論文選考委員会費支出		502,000	492,500	9,500
災害看護支援事業専門委員会支出		100,000	100,000	0
災害看護支援事業費支出	※ 8	1,500,000	1,870,000	△ 370,000
研究学術活動費支出		4,491,000	6,047,950	△ 1,556,950

科 目	備考	平成 24 年度 予算額 (H. 24. 4. 1～ H. 25. 3. 31)	平成23年度 補正予算額 (H. 23. 4. 1～ H. 24. 3. 31)	差 異	
第 32 回学術集会プログラム印刷・送付費支出		3,095,000	4,673,750	△ 1,578,750	
第 33 回学術集会案内印刷・送付費支出		1,135,000	1,113,200	21,800	
受賞論文表彰費支出		140,000	140,000	0	
研究倫理審査委員会費		121,000	121,000	0	
社会的活動費支出		<u>1,266,500</u>	<u>2,164,000</u>	△ 897,500	
社会貢献委員会支出		816,500	964,000	△ 147,500	
市民フォーラム開催費		450,000	400,000	50,000	
学会ホームページ維持管理費支出	※ 9	0	800,000	△ 800,000	
総務費支出		<u>1,327,000</u>	<u>2,094,000</u>	△ 767,000	
総務委員会費支出		400,000	610,000	△ 210,000	
広報委員会費支出		627,000	984,000	△ 357,000	
30 周年記念事業費	※ 10	300,000	500,000	△ 200,000	
学術集会費支出		<u>41,399,885</u>	<u>28,667,010</u>	12,732,875	
JANS32 学術集会		40,199,885	588,000	39,611,885	
会場費支出		24,460,000	388,000	24,072,000	
会議費支出		320,000	200,000	120,000	
旅費交通費支出		610,000	500,000	110,000	
消耗品費支出		670,000	500,000	170,000	
通信運搬費支出		241,000	0	241,000	
印刷製本費支出		5,665,000	855,000	4,810,000	
委託費支出		6,595,000	791,000	5,804,000	
人件費支出		100,000	64,000	36,000	
謝金支出		388,885	10,982,800	△ 10,593,915	
賃借料支出		0	3,440,000	△ 3,440,000	
渉外費支出		50,000	2,840,000	△ 2,790,000	
雑支出		100,000	600,000	△ 500,000	
懇親会運営費支出		1,000,000	285,000	715,000	
JANS33 学術集会		1,200,000	165,000	1,035,000	
会場費支出		0	120,000	△ 120,000	
会議費支出		100,000	370,000	△ 270,000	
旅費交通費支出		300,000	270,000	30,000	
消耗品費支出		200,000	100,000	100,000	
通信運搬費支出		50,000	5,227,710	△ 5,177,710	
印刷製本費支出		300,000	4,607,710	△ 4,307,710	
委託費支出		0	620,000	△ 620,000	
人件費支出		200,000	4,505,000	△ 4,305,000	
謝金支出		0	100,000	△ 100,000	
賃借料支出		0	763,500	△ 763,500	
渉外費支出		0	733,500	△ 733,500	
雑支出		50,000	30,000	20,000	
懇親会運営費支出		0	1,050,000	△ 1,050,000	
②管理費支出		<b>37,828,400</b>	<b>36,203,500</b>	<b>1,624,900</b>	
給料手当支出	※ 11	13,849,000	13,416,800	432,200	
通勤手当支出		1,350,000	1,570,000	△ 220,000	
退職給付支出		300,000	300,000	0	
福利厚生費支出	※ 12	1,522,000	1,210,000	312,000	
学会総会費	}	1,000,000	500,000	500,000	
社員総会費		※ 13	3,010,000	1,136,000	1,874,000
理事会費		※ 14	2,170,000	2,950,000	△ 780,000
委託費支出	※ 14	2,984,600	1,911,600	1,073,000	
渉外費支出		30,000	30,000	0	
旅費交通費支出	※ 15	25,000	450,000	△ 425,000	
通信運搬費支出		2,075,000	1,600,000	475,000	

科 目	備考	平成 24 年度 予算額 (H. 24. 4. 1～ H. 25. 3. 31)	平成 23 年度 補正予算額 (H. 23. 4. 1～ H. 24. 3. 31)	差 異
消耗品費支出		1,045,000	950,000	95,000
印刷製本費支出		60,000	200,000	△ 140,000
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		660,000	660,000	0
賃借料支出	※ 16	4,530,000	4,722,100	△ 192,100
保険料支出		7,800	7,000	800
諸謝金支出		50,000	100,000	△ 50,000
租税公課支出	※ 17	620,000	520,000	100,000
負担金支出	※ 18	280,000	550,000	△ 270,000
修繕費支出		50,000	50,000	0
選挙費用支出		600,000	940,000	△ 340,000
資格喪失者会費支出		540,000	1,500,000	△ 960,000
雑支出		1,020,000	880,000	140,000
<b>事業活動支出合計 (I b)</b>		<b>120,849,185</b>	<b>108,910,610</b>	<b>11,938,575</b>
<b>事業活動収支差額 (I a)-(I b)</b>		<b>△ 5,013,185</b>	<b>△ 10,576,110</b>	<b>5,562,925</b>
<b>II 投資活動収支の部</b>				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入		900,000	1,240,000	△ 340,000
選挙積立取崩収入		600,000	940,000	△ 340,000
退職給付引当資産取崩収入		300,000	300,000	0
②その他投資活動収入		0	280,000	△ 280,000
事務所更新料収入		0	280,000	△ 280,000
<b>投資活動収入合計 (II a)</b>		<b>900,000</b>	<b>1,520,000</b>	<b>△ 620,000</b>
2. 投資活動支出				
①特定財産取得支出		1,724,000	1,976,834	△ 252,834
選挙積立預金支出		1,000,000	1,200,000	△ 200,000
退職給付引当資産取得支出		724,000	776,834	△ 52,834
②固定資産取得支出		100,000	200,000	△ 100,000
什器備品購入支出		100,000	200,000	△ 100,000
③その他投資活動支出		0	105,000	△ 105,000
事務所更新料・火災保険料支出		0	105,000	△ 105,000
<b>投資活動支出合計 (II b)</b>		<b>1,824,000</b>	<b>2,281,834</b>	<b>△ 457,834</b>
<b>投資活動収支差額 (II a)-(II b)</b>		<b>△ 924,000</b>	<b>△ 761,834</b>	<b>△ 162,166</b>
<b>III 財務活動収支の部</b>				
1. 財務活動収入				
<b>財務活動収入合計 (III a)</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
2. 財務活動支出				
<b>財務活動支出合計 (III b)</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>財務活動収支差額 (III a)-(III b)</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>IV 予備費支出</b>	※ 19	<b>3,000,000</b>	<b>3,000,000</b>	<b>0</b>
<b>当期収支差額</b>		<b>△ 8,937,185</b>	<b>△ 14,337,944</b>	<b>5,400,759</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	※ 20	<b>41,708,128</b>	<b>56,046,072</b>	<b>△ 14,337,944</b>
<b>次期繰越収支差額</b>		<b>32,770,943</b>	<b>41,708,128</b>	<b>△ 8,937,185</b>

※ 社員総会、学会総会当日に配布した「平成 24 年度予算書」資料ページにて、比較対象として表示した「平成 23 年度補正予算」の欄の数値の一部（網掛けで示した箇所）に誤植がありました。本誌に掲載した予算書が正しい数値です。

※ 1 平成 24 年 4 月 1 日時点での会員数を 6,430 名、新入会者・再入会者 650 名と見積もり、合計請求人数を 7,080 名として計上

※ 2 (株)日本看護協会出版会 2 口、(株)医学書院・(株)南江堂・(株)へるす出版・(有)ヌーヴェルヒロカワ各 1 口、会費 1 口 50,000 円。

※ 3 学術集会への企業寄附金 100 万円、災害看護支援事業への寄付金 150 万円



## 資料 10

- ※ 4 英文誌編集委員会セミナー参加費（40万）を含む
- ※ 5 日本看護科学会誌（年間4号）の印刷製本費，編集事務費・通信費，論文データベース作成費，学術集会講演集定期購読等販売用印刷製本費
- ※ 6 JJNS（年間2号）の印刷製本費，オンライン投稿利用料，編集事務費，英文誌編集長謝金（旅費交通費を含め年間200万円）
- ※ 7 英文誌編集委員会企画セミナーに関わる経費支出を含む
- ※ 8 災害看護支援事業への寄付金を活用し，助成および広報活動を行う
- ※ 9 JANS ホームページ年間維持更新管理料，ホームページ英訳費用は管理費支出の委託費へ移行
- ※ 10 日本看護科学会誌にて学会創立30周年記念号発行費用
- ※ 11 正職員3名，パート5名（週1日～3日勤務）の給与・賞与
- ※ 12 事務所正職員社会保険料，健康診断料
- ※ 13 定例理事会6回（5月，6月，9月，10月，12月，2月），社員総会2回（6月，12月），学会総会1回（12月）
- ※ 14 会計顧問料，公認会計士監査報酬，事務所警備委託費，封入委託費，会員管理システム利用料（学術集会参加登録システム含む），JANS ホームページ年間維持更新管理料，ホームページ英訳費用
- ※ 15 事務所職員の出張に伴う交通費（5名分）．通勤費は「通勤手当」費目にて別途計上．
- ※ 16 事務所賃借料，カラー印刷機リース料，紙折り機リース料，レーザープリンタ複合機リース料
- ※ 17 収益事業（学会誌販売収入，著作権収入，学術集会に伴う広告販売収入）に関わる法人税および法人事業税は0円，法人住民税約7万円（均等割分のみ）．消費税課税売上高（学術集会非会員参加費収入，広告販売収入，学会誌販売収入など）から簡易課税方式にて計算した消費税分（約55万円）．
- ※ 18 日本看護系学会協議会8万円，看護系学会等社会保険連合20万円
- ※ 19 JANS32学術集会予備費600,115円を含む．
- ※ 20 平成24年度予算の前期繰越収支差額は見込み金額を表示している．

## 公益社団法人 日本看護科学学会 平成 24 年度 収支予算書

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日

科 目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
I 一般正味財産増減の部											
1. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
受取会費											
正会員受取会費					35,400,000	35,400,000				35,400,000	70,800,000
賛助会員受取会費					300,000	300,000					300,000
事業収益											
学会誌収益（講演集含む）		1,690,500	241,500			1,932,000					1,932,000
学術集会参加費			30,560,000			30,560,000					30,560,000
広告販売収入							8,600,000		8,600,000		8,600,000
寄付金・助成金	1,500,000		1,000,000			2,500,000					2,500,000
雑収益											
受取利息										4,000	4,000
著作権料										100,000	100,000
懇親会収入			640,000			640,000					640,000
その他雑収益		400,000				400,000					400,000
経常収益計	1,500,000	2,090,500	32,441,500		35,700,000	71,732,000	8,600,000		8,600,000	35,504,000	115,836,000
(2) 経常費用											
①事業費											
学会誌発行費（周年記念事業費含む）		28,647,000				28,647,000					28,647,000
学術集会プログラム等発行費			4,230,000			4,230,000					4,230,000
受賞論文表彰費		140,000				140,000					140,000
会場費（学術集会・委員会）			24,033,900	440,000		24,523,900	426,100	20,000	446,100		24,970,000
会議費（学術集会・委員会）	86,000	142,000	412,683	31,500		672,183	7,317	36,000	43,317		715,500
旅費交通費	1,053,593	1,222,121	896,438	530,235		3,702,387	16,003	574,853	590,856		4,293,243
通信運搬費	388,247	246,050	475,972	59,529		1,169,798	17,602	52,600	70,202		1,240,000
消耗品費	257,002	118,661	950,551	39,835		1,366,049	21,468	58,936	80,404		1,446,453
印刷製本費	111,024	55,091	5,778,076	85,010		6,029,201	192,781	1,087	193,868		6,223,069
委託費	593,372	873,224	6,753,460	28,089		8,248,145	132,915	180,083	312,998		8,561,143
諸謝金	80,000		382,111	90,555		552,666	6,774	100,000	106,774		659,440
人件費（学術集会・委員会）	80,000	105,000	294,774	20,000		499,774	5,226	100,000	105,226		605,000
通勤手当	248,040	114,539	123,641	12,705		498,925	8,154	24,463	32,617		531,542
給料手当	2,544,528	1,174,996	1,268,373	130,339		5,118,236	83,650	250,951	334,601		5,452,837
退職給付費用	133,023	61,427	66,308	6,814		267,572	4,373	13,119	17,492		285,064
福利厚生費	279,643	129,132	139,394	14,324		562,493	9,193	27,579	36,772		599,265
光熱水料費	121,264	55,997	60,447	6,212		243,920	3,987	11,960	15,947		259,867
賃借料	832,314	384,340	414,884	42,634		1,674,172	27,362	82,086	109,448		1,783,620
渉外費			49,129			49,129	871		871		50,000
雑支出	187,408	86,540	240,805	9,600		524,353	8,774	18,483	27,257		551,610
懇親会支出			982,580			982,580	17,420		17,420		1,000,000
修繕費	9,187	4,242	4,579	471		18,479	302	906	1,208		19,687
火災保険料	1,433	662	714	73		2,882	47	141	188		3,070
租税公課							620,000		620,000		620,000
減価償却費	66,144	30,544	32,971	3,388		133,047	2,174	6,523	8,697		141,744
災害看護支援事業費	1,500,000					1,500,000					1,500,000
②管理費											
学会総会費										1,000,000	1,000,000
社員総会費										3,010,000	3,010,000
理事会費										2,170,000	2,170,000
会場費（委員会）										100,000	100,000
会議費（委員会）										42,000	42,000
旅費交通費										695,157	695,157
通信運搬費										1,333,000	1,333,000
消耗品費										633,547	633,547
印刷製本費										266,376	266,376
委託費										1,809,457	1,809,457
諸謝金										200,000	200,000
人件費（委員会）										350,000	350,000
通勤手当										818,458	818,458
給料手当										8,396,163	8,396,163
退職給付費用										438,936	438,936
福利厚生費										922,735	922,735

科 目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
光熱水料費										400,133	400,133
賃借料										2,746,380	2,746,380
渉外費										30,000	30,000
慶弔費										50,000	50,000
雑支出										618,390	618,390
修繕費										30,313	30,313
火災保険料										4,730	4,730
減価償却費										218,256	218,256
支払負担金										280,000	280,000
経常費用計	8,572,222	33,641,566	47,591,790	1,551,313		91,356,891	1,612,493	1,559,770	3,172,263	26,564,031	121,093,185
当期経常増減額	-7,072,222	-31,551,066	-15,150,290	-1,551,313	35,700,000	-19,624,891	6,987,507	-1,559,770	5,427,737	8,939,969	-5,257,185
2. 経常増減の部											
(1) 経常外収益											
経常外収益計											
(2) 経常外費用											
経常外費用計											
当期経常外増減額											
他会計振替額					6,534,374	6,534,374	-6,534,374	0	-6,534,374		
当期一般正味財産増減額	-7,072,222	-31,551,066	-15,150,290	-1,551,313	42,234,374	-13,090,517	453,133	-1,559,770	-1,106,637	8,939,969	-5,257,185

注1 従来形式の収支予算書で表示されている各委員会費支出、学術集会費支出、市民フォーラム開催費支出、選挙費用支出は、事業の目的別に区分をし、各費用科目に予算を計上している。

注2 従来形式の収支予算書の事業費、管理費は科目ごとに一定の配賦割合（面積割合や従事割合など）に基づき、本収支予算書の事業費、管理費に配賦されている。

注3 従来形式の収支予算書に表示されている「退職給付支出」、「資格喪失者会費支出（貸倒損失）」、「投資活動収支」、「予備費」は本予算書には算入しない。

注4 従来形式の収支予算書に表示されていない「減価償却費」、「退職給付費用（要積立額）」を本予算書に計上している。

## 第 34 回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告について

- ・第 34 回（平成 26 年度）日本看護科学学会学術集会会長  
鎌倉 やよい（愛知県立大学）